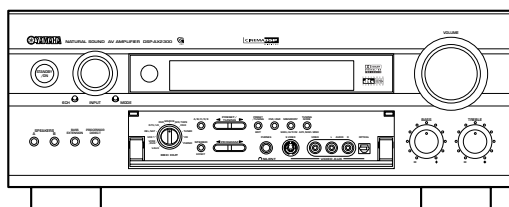
DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX2300

取扱説明書

ヤマハ DSP AVアンプDSP-AX2300をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本機の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書をご確認ください

保証書に販売店名、購入日などが記入されておりませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

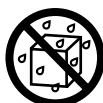
- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室･台所･海岸･水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解･改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理･調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん･カーペットの上には設置しない。
- あおむけや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

（少なくとも本機の左右20cm、上30cm、背面20cm以上離して設置してください。）

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

必ず行う

屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

準備

基本操作

応用操作

その他の情報

本機の特長

高音質ハイパワー6チャンネルアンプを搭載

◆ 定格出力
(20Hz〜20kHz, 歪率0.04%, 6Ω)
メインチャンネル(L、R): 110W + 110W
センターチャンネル: 110W
リアチャンネル(L、R): 110W + 110W
リアセンターチャンネル: 110W

「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

◆ ドルビープロロジックデコーダー
／ドルビープロロジックIIデコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー
／ドルビーデジタルEXデコーダー
◆ DTSデコーダー
／DTS-ESマトリクス6.1、ディスクリート6.1デコーダー／DTS Neo:6デコーダー
◆ AACデコーダー
◆ シネマDSP: ヤマハが誇るDSPと、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)、AAC(アドバンストオーディオコーディング)の融合
◆ 少ないスピーカーでもマルチチャンネル再生を仮想的に再現できるバーチャルシネマDSP機能
◆ ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できるサイレントシアター機能

高機能FM/AMステレオチューナー

◆ 40局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能内蔵

AVアンプにふさわしい多機能構成

◆ 96-kHz/24-bit D/Aコンバーター
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができる16項目のセットメニュー
◆ 複数のスピーカーの音量バランス調節を容易にするテストトーン
◆ DVDオーディオやその他のデコーダーにも対応できる6CH INPUT端子
◆ OPTICAL(光)デジタル入出力端子とCOAXIAL(同軸)デジタル入力端子
◆ スリープタイマー
◆ メーカーコード設定／ラーニング／マクロ機能対応リモコン
◆ Sビデオ入出力端子
◆ コンポーネントビデオおよびD4ビデオ入出力端子
◆ モニター出力へのビデオ信号変換機能
(Sビデオ↔コンポジットビデオ)

■ 本書の記載について

● 💡は操作上のアドバイスなど補足的な説明です。
● 本書では本体とリモコンのどちらでも操作できるが本体とリモコンのボタン名が異なる場合は、リモコンのボタン名を括弧内に表記しています。
● 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されております。その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
● 説明の便宜上、文中のイラスト等が実際の製品と異なる場合があります。

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC II

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号DDは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

以下はパテントナンバーです。

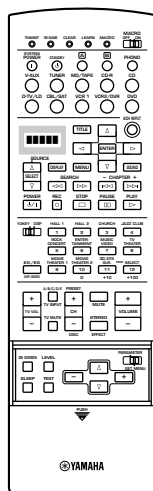
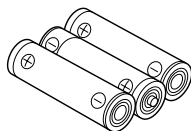
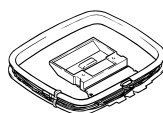
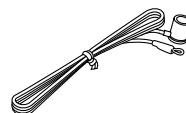
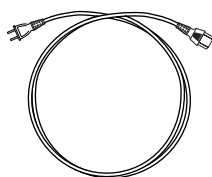
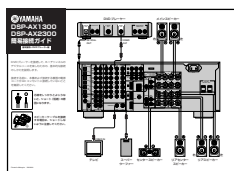
08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

DTS、DTS-ES Extended SurroundおよびNeo:6はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

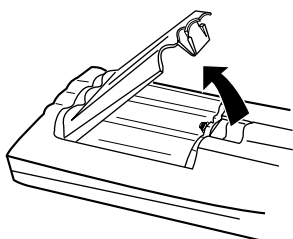
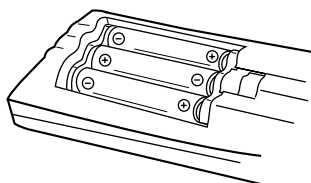
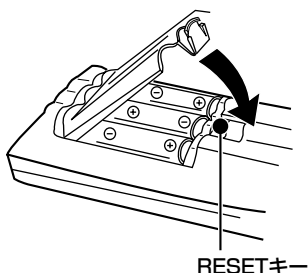
ご使用の前に

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単3乾電池（R6）×3本

AMループアンテナ

FM簡易アンテナ

電源コード

簡易接続ガイド

リモコンを準備する

■リモコンの電池の入れ方

1 リモコンの裏蓋を開ける。

2 付属の単3乾電池(3本)を、リモコンの電池ケース内の表示に合わせて、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように、正しく入れる。

3 裏蓋をカチッと音がするまで押して、閉じる。

ご注意

- リモコンの電池ケース内の表示にしたがって、+(プラス)と−(マイナス)の向きを間違えないように、正しく入れてください。
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

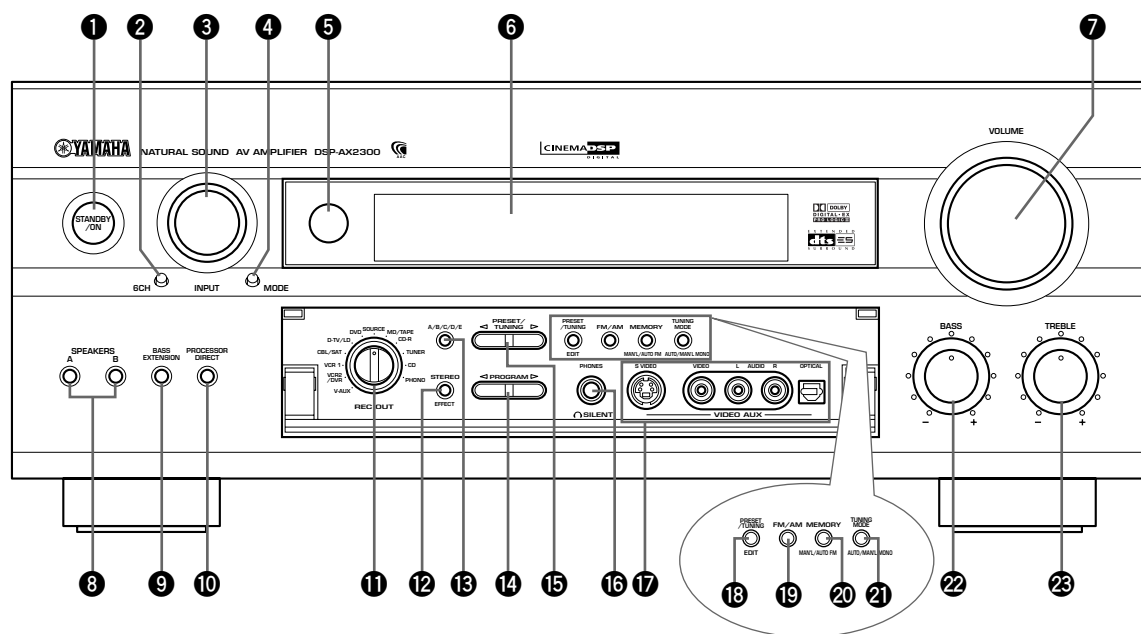
■乾電池の交換

乾電池が消耗すると、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押してもTRANSMITインジケーターが点灯しなくなったり、リモコンインジケーターの表示が暗くなったりします。このような場合は、3本とも新しい乾電池に交換してください。交換したら、RESETキーを押します(RESETキーを押してもラーニングや設定内容は消えません)。

ご注意

- 乾電池交換の際、電池を外したまましばらく(3分以上)放置すると、ラーニングや設定内容が消えてしまうことがありますのでご注意ください。
- 消耗した乾電池をそのまま入れておくと、ラーニングや設定内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、新しい乾電池に交換して、再度設定を行ってください。

各部の名称とはたらき

フロントパネル

スタンバイ　オン
❶ STANDBY/ONスイッチ

本機の電源の入／待機（スタンバイ）を切り替えます。
なお、電源を入れて数秒間は音が出ません。
スタンバイモード中は、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

チャンネル　インプット
❷ 6CH（INPUT）キー

6CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。
INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます（26ページ参照）。

インプット
❸ INPUTセレクター

再生したい入力信号を選びます。

インプット　モード
❹ （INPUT）MODEキー

同じ機器を複数の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定できます（28ページ参照）。

❺ リモコン受光窓

付属リモコンからの信号を受信します。

❻ ディスプレイ

プログラムの名称や、設定値などを表示します。

ボリューム
❼ VOLUMEコントロール

全体の音量を調節します。
録音用のOUT（REC）端子の音量レベルには影響しません。

スピーカー
❽ SPEAKERS A/Bスイッチ

音声を出力するメインスピーカーの系統（AとB）を選びます。

バス　エクステンション
❾ BASS EXTENSIONスイッチ

スイッチを押してONにすると、全体のトーンバランスを保持したまま、メインL、Rチャンネルの低域（60Hz）を＋6dB（2倍）強調します。スーパーウーファーを使用しない場合に効果的です。

プロセッサー　ダイレクト
❿ PROCESSOR DIRECTスイッチ

スイッチを押してONにすると、BASS（低域）とTREBLE（高域）、BASS EXTENSION調整回路をバイパスします。信号経路がシンプルになるので、元の音源により忠実な音を再生できます。

レック　アウト
⓫ REC OUTセレクター

録音／録画するソースを選びます。

⑫ STEREO/EFFECTキー
ステレオ音声(2チャンネル)と音場効果を切り替えます。STEREOを選択すると、音場効果のない音声がメインL、Rスピーカーから出力されます(32ページ参照)。

⑬ A/B/C/D/Eキー
FM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

⑭ PROGRAM ◁/▷ キー
DSPプログラムを選択します。

⑮ PRESET/TUNING ◁/▷ キー
ディスプレイのバンド(FMまたはAM)表示のとなりに「:」が点灯している際に、1-8の登録(プリセット)局番号を選択します。周波数から選局したいときは「:」の表示を消してください(40〜43ページ参照)。

⑯ PHONES端子
ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出ませんので、深夜に音声を楽しまれる際は、ヘッドホンをお使いくださるようお勧めします。ヘッドホン接続時は、サイレントシアターで音声を楽しめます。(「1G SP B SET」の設定により例外があります。64ページ参照)

⑰ VIDEO AUX端子
ゲーム機やビデオカメラレコーダーなどを接続する予備入力端子です。
この端子に入力した信号を再生する場合には、本体のINPUTセレクターかリモコンの入力選択キーで「V-AUX」を選んでください。

⑱ PRESET/TUNING(EDIT)キー
選局するときに、あらかじめ登録(プリセット)した局から選ぶか、または周波数から選局するのかを切り替えます。ディスプレイのバンド(FMまたはAM)表示のとなりに「:」が点灯しているときはプリセット選局、消灯しているときは周波数からの選局になります。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います(40、42、43ページ参照)。

⑲ FM/AMキー
FM放送、 AM放送受信を切り替えます。

⑳ MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キー
受信した放送局を登録(プリセット)します。3秒以上押すと、オートプリセット機能を利用できます(41、42ページ参照)。

㉑ TUNING MODE(AUTO/MAN' L MONO)キー
手動(マニュアル)選局または自動(オート)選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTOインジケーターを消します(40、41ページ参照)。

㉒ BASS(低域)コントロール
メインL、Rチャンネルの音声の低音域を調節します。右(+)に回すと低音域が強調され、左(−)に回すと減衰します。

㉓ TREBLE(高域)コントロール
メインL、Rチャンネルの音声の高音域を調節します。右(+)に回すと高音域が強調され、左(−)に回すと減衰します。

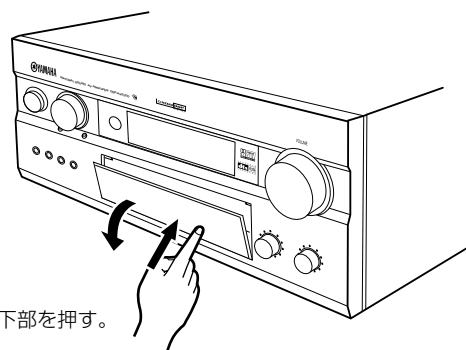
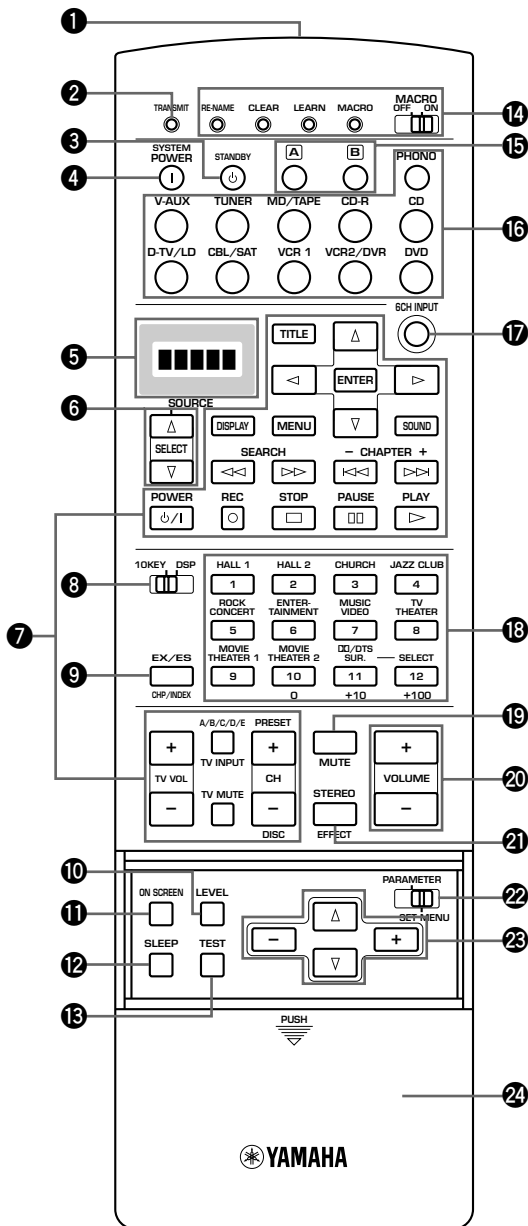
ご注意

トーンコントロールにより、メインチャンネルを極端にブースト(増強)、またはカット(減衰)した場合、メインL、Rとセンター、リア(エフェクト)スピーカーの間で、音のつながりが悪くなることがあります。

■フロントパネルドア
フロントパネルドア内のスイッチやボタンなどを使用するときは、ドアの下部を押して、ドアを開きます。フロントパネルドア内のスイッチやボタンなどを使用しないときは、ドアを閉めておきます。

ドアの下部を押す。

リモコン

はじめに

❶ 送受信窓
リモコン操作用の赤外線信号を送受信します。送信できる範囲については、「リモコンの使用について」(8ページ)を参照してください。

❷ TRANSMITインジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

❸ STANDBYキー
本機をスタンバイ(待機)状態にします。

❹ SYSTEM POWERキー
本機の電源を入れます。

❺ リモコンディスプレイ
入力ソースや操作状態を表示します。

❻ SOURCE SELECT ∆/∇ キー
入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えるときに押します。

❼ 機器操作キー
選択した機器の基本的な操作ができます。指定した機器やメーカーコードにより各キーの機能は変わります。

ご注意

ヤマハ以外の機器は、ラーニング後またはメーカーコードの設定後にリモコンで操作できます。

❽ 10KEY/DSPスイッチ
本機を操作するときは「DSP」に合わせます。音場プログラムを選択できます。他の機器を操作するときは「10KEY」に合わせます。1〜12の数字キーとして使用できます。

❾ EX/ESキー
10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせたときに、ドルビーデジタルEXまたはDTS-ESデコーダーを入／切します。

❿ LEVELキー
出力レベルを調節するスピーカーを選択します(73ページ参照)。

⓫ ON SCREENキー
モニター画面に本機の操作状態や音場プログラムの設定内容などを表示します。押すたびに表示モードが切り替わります(22ページ参照)。

⓬ SLEEP(スリープ)キー
スリープタイマーを設定します(74ページ参照)。

⓭ TEST(テスト)キー
テストトーンを出力します。

⓮ リモコン学習機能ボタン/MACRO(マクロ)スイッチ
リモコンのラーニングや入力ソース名の変更を行うときや、マクロ機能を使うときなどに使用します。

⓯ A、Bキー
設定により本機の入力ソースを切り替えずに他の機器を操作できます。

⓰ 入力選択キー
再生する入力ソースを選択します。入力ソースにあわせて、リモコンの機能も切り替わります(26ページ参照)。

⓱ 6CH(チャンネル) INPUT(インプット)キー
本機背面の6CH INPUT端子に接続されたソースからの信号を再生します。

⓲ 数字/音場プログラムキー
数字の入力や、音場プログラムの選択に使用します。

⓳ MUTE(ミュート)キー
消音します(−∞dB)。消音するとディスプレイに「MUTE ON」と表示されます。消音中はMUTEインジケーターが点滅します。

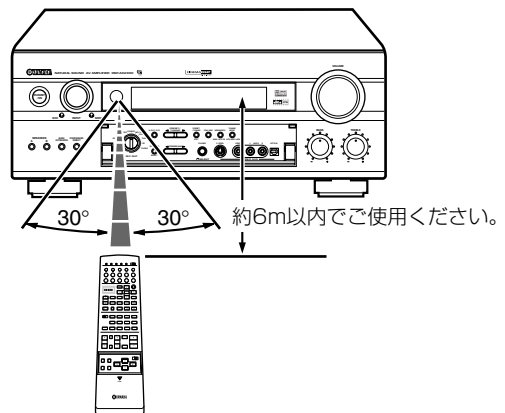
⓴ VOLUME(ボリューム)+/−キー
本機の音量を調節します。

㉑ STEREO(ステレオ)/EFFECT(エフェクト)キー
音場効果を切って、通常のステレオ音声を再生するときに押します。メインスピーカーL/R以外の各スピーカーから音声は出力されません。もう一度押すと、音場効果が入ります(32ページ参照)。

㉒ PARAMETER(パラメーター)/SET(セット) MENU(メニュー)スイッチ
パラメーターモードとセットメニューモードを切り替えます。

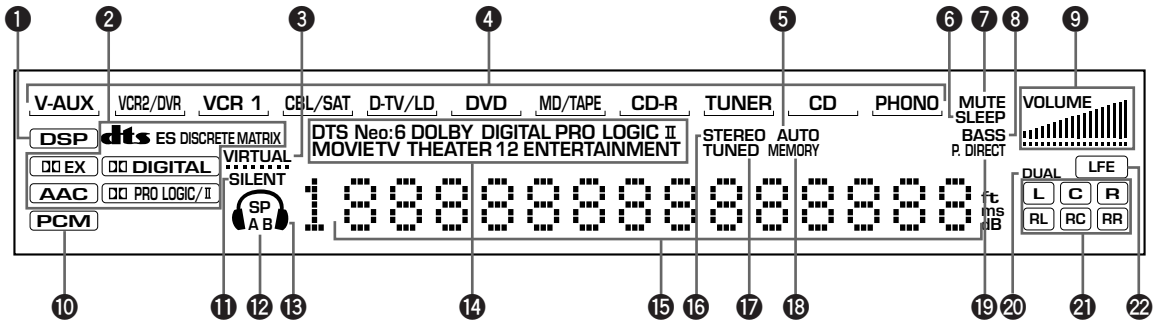
㉓ パラメーター/セットメニューカーソルキー
パラメーターやセットメニューの選択/設定に使用します。

㉔ スライドカバー
手前にスライドするとPARAMETER/SET MENUスイッチ、ON SCREENキー、TESTキーなどが出ます。これらのスイッチ/キーを使用しないときは、閉じておくことができます。

リモコンの使用について

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

■リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  −ストーブのそばや風呂場など、温度·湿度の高いところ。
  −ほこりの多いところ。
  −極端に寒いところ。

ディスプレイ

❶ DSPインジケーター

DSP音場プログラムを選ぶと点灯します。

❷ デコーダーインジケーター

本機内蔵のデコーダーが作動中に、それぞれのインジケーターが点灯します。

❸ VIRTUAL（バーチャル）インジケーター

バーチャルシネマDSP時に点灯します。

❹ 入力ソースインジケーター

現在のソース表示下部に ＿＿＿ が点灯します。

❺ AUTO（オート）インジケーター

チューナーをオート選局にすると点灯します。

❻ SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマーの作動中に点灯します。

❼ MUTE（ミュート）インジケーター

消音状態のときに点滅します。

❽ BASS（バス）インジケーター

BASS EXTENSIONがONのときに点灯します。

❾ VOLUME（ボリューム）インジケーター

現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて右側にインジケーターが増えていきます。

❿ PCMインジケーター

PCM信号入力時に点灯します。

⓫ SILENT（サイレント）インジケーター

サイレントシアター時に点灯します。

⓬ SP（スピーカー） A/Bインジケーター

SPEAKERS A/Bスイッチ(26ページ)で選んだメインスピーカーを表示します。

⓭ ヘッドホンインジケーター

PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

⓮ 音場プログラムインジケーター

音場プログラムを選んだときに、それぞれのインジケーターが点灯します。

⓯ マルチインフォメーションディスプレイ

音場プログラム名や各種設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

⓰ STEREO（ステレオ）インジケーター

AUTO表示が点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

⓱ TUNED（チューンド）インジケーター

FM/AM放送が受信されたときに点灯します。

⓲ MEMORY（メモリー）インジケーター

放送局を登録(プリセット)するときに点滅します。

⓳ P.DIRECT（プロセッサー ダイレクト）インジケーター

PROCESSOR DIRECTがONのときに点灯します。

⓴ DUAL（デュアル）インジケーター

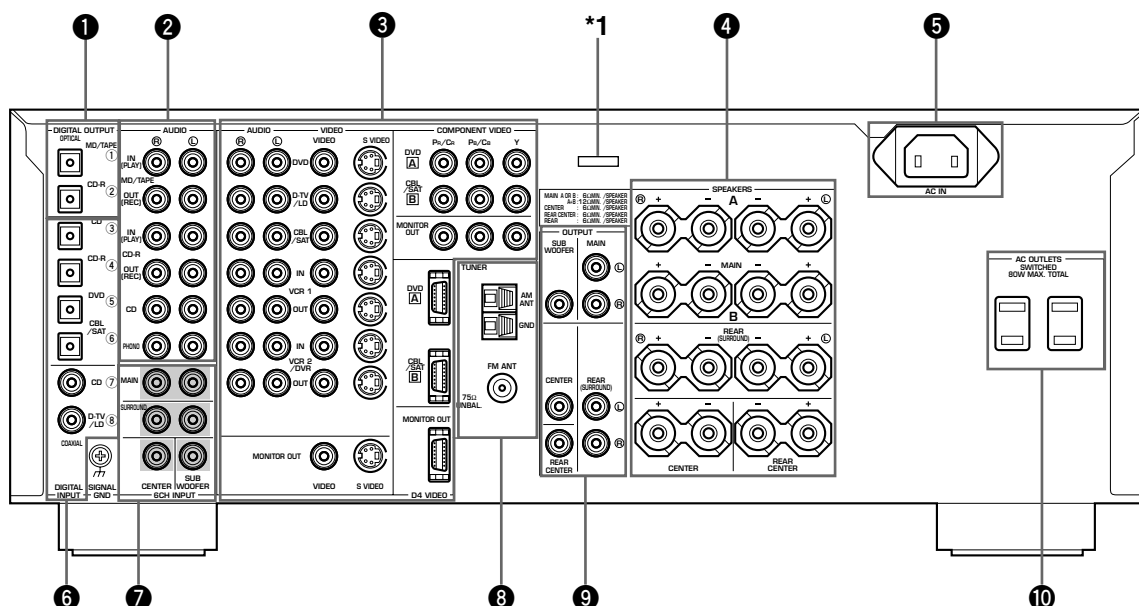
ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号入力時に点灯します。

㉑ 入力信号チャンネルインジケーター

再生ソースのデジタル信号に含まれる、音声チャンネルに対応したインジケーターが点灯します。

㉒ LFEインジケーター

入力信号にLFEが含まれているときに点灯します。

リアパネル

❶ デジタル(光)出力端子

MDレコーダーなどのオーディオ機器を、光ファイバーケーブルで接続します(17、18ページ参照)。

❷ アナログオーディオ機器 入出力端子

CDプレーヤーなどのオーディオ機器を、ステレオピンケーブルで接続します(17、18ページ参照)。

❸ ビデオ機器 入出力端子

DVDプレーヤーやビデオデッキなどのビデオ機器を音声/映像ケーブルで接続します(14〜16ページ参照)。

❹ スピーカー端子

スピーカーを接続します(12、13ページ参照)。

❺ AC IN端子

付属の専用電源コードを接続します(21ページ参照)。

❻ デジタル(光、同軸)入力端子

CD/DVDプレーヤーなどのオーディオ/ビデオ機器を、光ファイバー/同軸ケーブルで接続します(14〜18ページ参照)。

❼ 6CH INPUT端子

外部デコーダーやDVDオーディオプレーヤーを、ステレオピンケーブルとモノラルピンケーブルで接続します(20ページ参照)。

❽ アンテナ端子

アンテナを接続します(19ページ参照)。

❾ OUTPUT端子

20ページ参照

❿ 予備電源コンセント

電源スイッチ連動の電源コンセントです(21ページ参照)。

*1 工場検査用端子ですので、ご使用になれません。

スピーカーを準備する

本機は6スピーカーシステムに対応しています

本機はメインスピーカーL、R(2本)、センタースピーカー(1本)、リアセンタースピーカー(1本)、リアスピーカーL、R(2本)の6スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。
メインスピーカーはメインチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音を出力し、リアスピーカーL、Rはサラウンドと効果音、リアセンタースピーカーはサラウンド、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。スピーカーモードの設定により、最小2スピーカーシステムからの再生が可能ですが、6スピーカーシステムにおいて、最も良い音場効果が得られます。

本機と接続するスピーカーを選ぶポイント

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など(音色)が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーの使用をおすすめします。
- 同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのスピーカーで、スピーカーシステムを揃えることをおすすめします。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

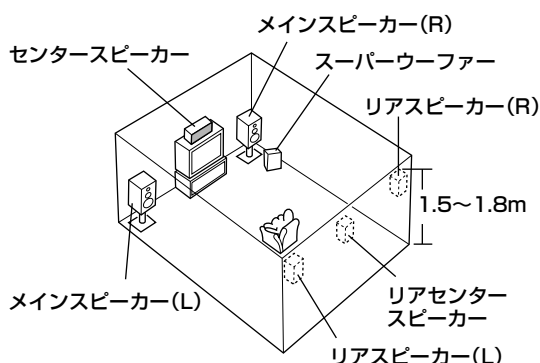
スーパーウーファーで低音域の音響効果を向上できます

別売りのスーパーウーファーをご使用になると、さらに音響効果を向上させることができます。スーパーウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTS、AACに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。臨場感の優れた低音出力には、ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムのご使用をおすすめします。

スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください

防磁型以外のスピーカーを使用すると、テレビ(モニター)に映る映像が乱れることがあります。特に画面近くに設置する必要のあるセンタースピーカーやスーパーウーファーには、防磁型スピーカーのご使用をおすすめします。
防磁型スピーカーをお使いの場合でもテレビ(モニター)の映像が乱れるときは、スピーカーをテレビ(モニター)と離して設置してください。

スピーカーの設置場所を決める

スピーカーは下図のように配置してください。

メインスピーカー(L､R)

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビ(モニター)は、左右のスピーカーの中央に設置するようにしてください。

センタースピーカー

メインスピーカーの中間に設置します。テレビ(モニター)を設置している場合は、テレビ(モニター)画面とスピーカーの前面を揃え、テレビ(モニター)の上や下など、できるだけテレビ(モニター)画面に近いところの中央に設置します。

リアスピーカー(L､R)

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

リアセンタースピーカー

後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

スーパーウーファー

前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

ご注意

6スピーカーシステムでお使いにならないときは、お使いになるシステムにあわせて、スピーカーモードを設定してください(61〜64ページ参照)。

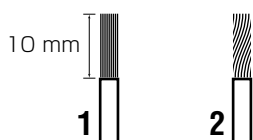
スピーカーを接続する

接続する際に、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、「＋」(赤)、「－」(黒)を確認して正しく接続してください。極性(＋、－)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。

重要

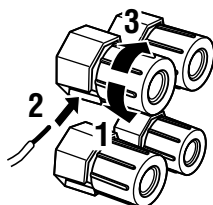
- スピーカーケーブルを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、本機の保護回路が働いて自動的にスタンバイ状態になりますが、故障の原因になる恐れがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

接続が終わったら、お使いのスピーカーの数や性能に応じて、セットメニューのスピーカーモードを設定してください。

■スピーカーケーブルを準備する

一般的にスピーカーケーブルは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

1 **スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を、10mmぐらいはがす。**

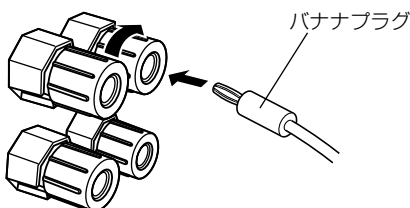
2 **芯線をしっかりとよじる。**
しっかりよじらないと、ショート(接触)の原因になります。

■スピーカーケーブルを接続する

1 **スピーカー端子を左に回してゆるめる。**

2 **スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。**

3 **スピーカー端子を右に回して、締め付ける。**

ご注意

市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

■MAIN SPEAKERS端子(メイン スピーカー)

メインスピーカーを接続します。

■REAR SPEAKERS端子(リア スピーカー)

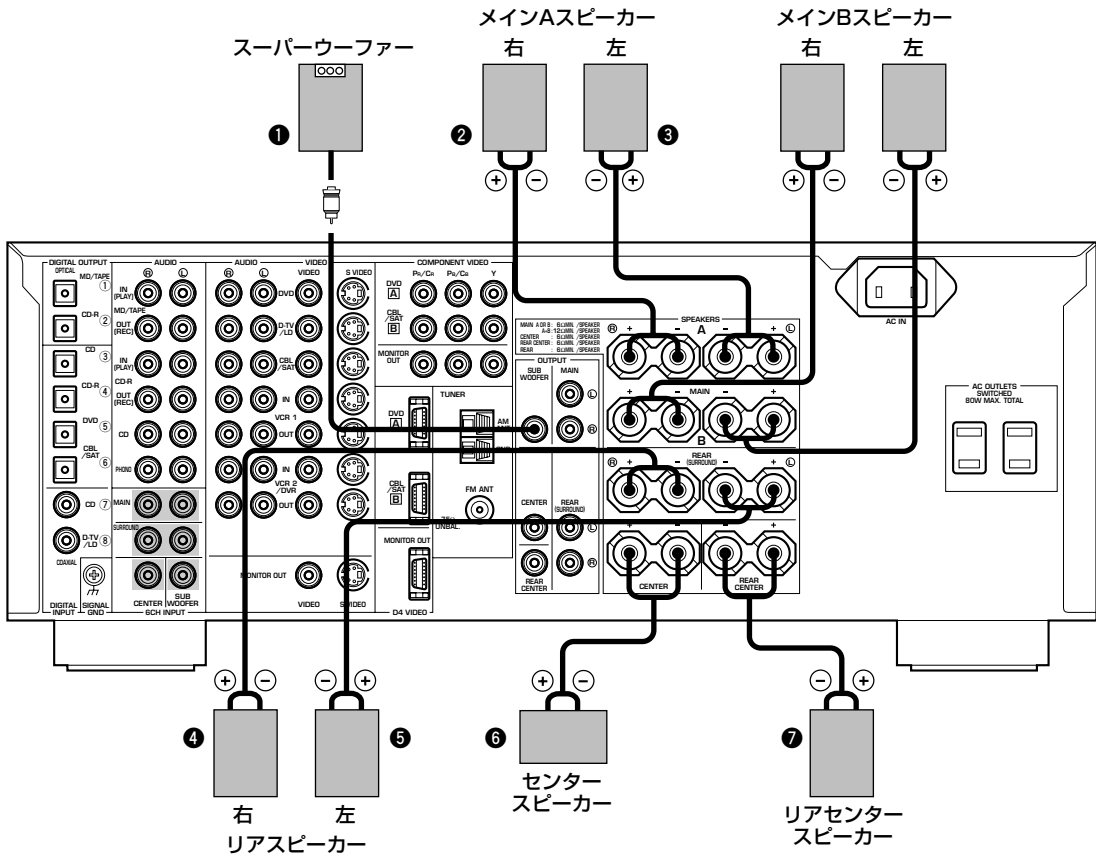
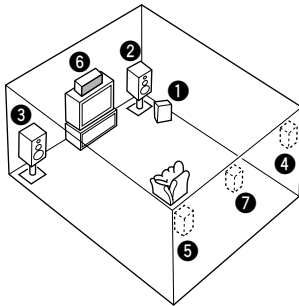
リアスピーカーを接続します。

■CENTER SPEAKER端子(センター スピーカー)

センタースピーカーを接続します。

■REAR CENTER SPEAKER端子(リア センター スピーカー)

リアセンタースピーカーを接続します。

スーパーウーファー
メインAスピーカー 右 左
メインBスピーカー 右 左
センター スピーカー
右 左 リアスピーカー
リアセンター スピーカー

リスニングルーム内の各スピーカーの配置は、下図のようになります。

■SUBWOOFER端子

（サブウーファー）

ヤマハ　アクティブサーボ　スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵スーパーウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子につなぎます。
メイン、センターおよびリアチャンネルからの90Hz以下の低音域の信号はこの端子に送られます。ドルビーデジタル、DTS、AACデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

ご注意

セットメニュー「1 SPEAKER SET」と「10 LFE LEVEL」の設定によっては、SUBWOOFER端子から音声信号が出力されない場合もあります。

準備

接続のしかた

接続する前に

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。
- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)などを確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子の名前が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- S VIDEO、COMPONENT VIDEOおよびD4 VIDEO端子の接続にはそれぞれ専用のケーブル(市販)を用意してください。

ビデオ機器の接続

■ビデオ端子について

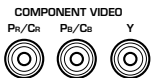
本機には4種類のビデオ端子が備えられています。

VIDEO端子

コンポジット信号を伝送します。

S VIDEO端子

S VIDEO信号を伝送します。
S VIDEO信号は、ビデオ信号を輝度信号と色信号に分けて伝送するのでコンポジット信号より美しい映像で録画･再生ができます。

COMPONENT VIDEO端子

COMPONENT VIDEO信号を伝送します。
COMPONENT VIDEO信号はビデオ信号を輝度信号と色差信号2種類の3系統に分けて伝送するのでS VIDEO信号よりさらに美しい映像で再生ができます。

D4 VIDEO端子

D4 VIDEO端子はCOMPONENT VIDEO信号とコントロール信号を1本のケーブルで接続することができます。

これらの信号を正しくモニターに表示するためにはモニターおよび再生機器の取扱説明書を参照してください。

Sビデオ出力をS VIDEO端子に、コンポーネントビデオ出力をCOMPONENT VIDEO端子に、D端子出力をD4 VIDEO端子に接続してください。

ヒント
- 本機のCOMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子は、S VIDEO端子およびVIDEO端子とは独立しています。
- お使いのモニターの入力端子に合わせて接続してください。本機のS VIDEO端子に入力された信号は内部でコンポジット信号に変換されてビデオ端子にも出力されます。
- セットメニュー「13 DISPLAY SET」の「V CONV.」の設定により、本機のVIDEO端子に入力された信号をS VIDEO端子に出力することもできます(71ページ参照)。
- S VIDEO端子とVIDEO端子の両方に入力されている場合はSビデオ信号が優先されます。
- COMPONENT VIDEO A、B端子の入力機器の設定をセットメニュー「7 I/O ASSIGNMENT」で変更することもできます(67、68ページ参照)。
- COMPONENT VIDEO出力端子とD出力端子は同時使用が可能です。例えばCOMPONENT VIDEO出力端子をプロジェクターのコンポーネントビデオ入力端子に、D出力端子をモニターのD入力端子に接続して、同じ映像を両方で楽しむことができます。

ご注意
- COMPONENT VIDEO端子への接続については、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機のS VIDEO端子はS1、S2規格には対応していません。

■VIDEO AUX端子(フロントパネル)

ゲーム機などを接続する予備入力端子です。

OPTICAL出力
D端子出力
AUDIO出力
DVDプレーヤー
COMPONENT出力
VIDEO出力
S VIDEO出力
DIGITAL OUTPUT
OPTICAL
AUDIO
VIDEO
S VIDEO
COMPONENT VIDEO
MD/TAPE
CD-R
CD
DVD
CBL/SAT
D-TV/LD
COAXIAL
DIGITAL INPUT
SIGNAL GND
CENTER
SUB WOOFER
6CH INPUT
MAIN
SURROUND
PHONO
IN (PLAY)
OUT (REC)
VCR 1
VCR 2/DVR
IN
OUT
MONITOR OUT
MONITOR OUT
TUNER
AM ANT
GND
FM ANT
75Ω UNBAL.
D4 VIDEO
VIDEO出力
S VIDEO出力
VIDEO入力
S VIDEO入力
D端子入力
AUDIO出力
TV/デジタルTVやLDプレーヤー
COAXIAL出力
COMPONENT入力
モニター
信号の流れ
ステレオピンケーブル(L/R)
光ファイバーケーブル
同軸ケーブル
ビデオ用ピンケーブル
Sビデオケーブル
D端子ケーブル
コンポーネントケーブル

準備

OPTICAL出力
D端子出力
ケーブルTVや衛星放送チューナー
AUDIO出力
COMPONENT出力
VIDEO出力
S VIDEO出力
DIGITAL OUTPUT
AUDIO
VIDEO
S VIDEO
COMPONENT VIDEO
MONITOR OUT
TUNER
AM ANT
GND
FM ANT
75Ω UNBAL.
D4 VIDEO
DIGITAL INPUT
SIGNAL GND
6CH INPUT
VIDEO 出力
VIDEO 入力
AUDIO入力
AUDIO出力
VCRまたはVCR2/DVR（デジタルビデオレコーダー）
S VIDEO 出力
S VIDEO入力
S VIDEO 入力
D端子入力
VIDEO 入力
COMPONENT 入力
モニター
信号の流れ
ステレオピンケーブル（L/R）
光ファイバーケーブル
ビデオ用ピンケーブル
Sビデオケーブル
D端子ケーブル
コンポーネントケーブル

オーディオ機器の接続

■デジタル端子の接続

本機は、アナログ端子の他にデジタル信号をダイレクトに接続できるデジタル端子(COAXIAL[同軸]/OPTICAL[光])を装備しています。(デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS/AAC兼用です。)COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号を優先します。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送Aモードからや CDやMDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。また、DVDディスクの96kHzにも対応しています。

ヒント

本機のデジタル入力端子(OPTICAL/COAXIAL)にはあらかじめ端子名が設定されていますが、端子名と異なるデジタル機器を接続することができます。端子名と異なる機器を接続する場合は、セットメニュー「7 I/O ASSIGNMENT」で端子名を変更することができます(67、68ページ参照)。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、OPTICAL端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)

ご注意

- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

■レコードプレーヤーの接続

MMカートリッジ、または高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランス、またはMCヘッドアンプを使用してPHONO端子に接続してください。

ヒント

SIGNAL GND端子は、安全アースではありません。レコードプレーヤーなどを接続した場合の雑音を低減するものです。(レコードプレーヤーによっては、まれにアース線をSIGNAL GND端子に接続しない方がハムノイズが減少することがあります。)

■CDプレーヤーの接続

ヒント

- CDプレーヤーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のOPTICAL CD端子とつなぎます。COAXIALデジタル出力端子がある場合は、本機のCOAXIAL CD端子とつなぎます。
- CDのCOAXIAL端子とOPTICAL端子に同時に信号が入るとCOAXIAL端子の入力信号が優先されます。

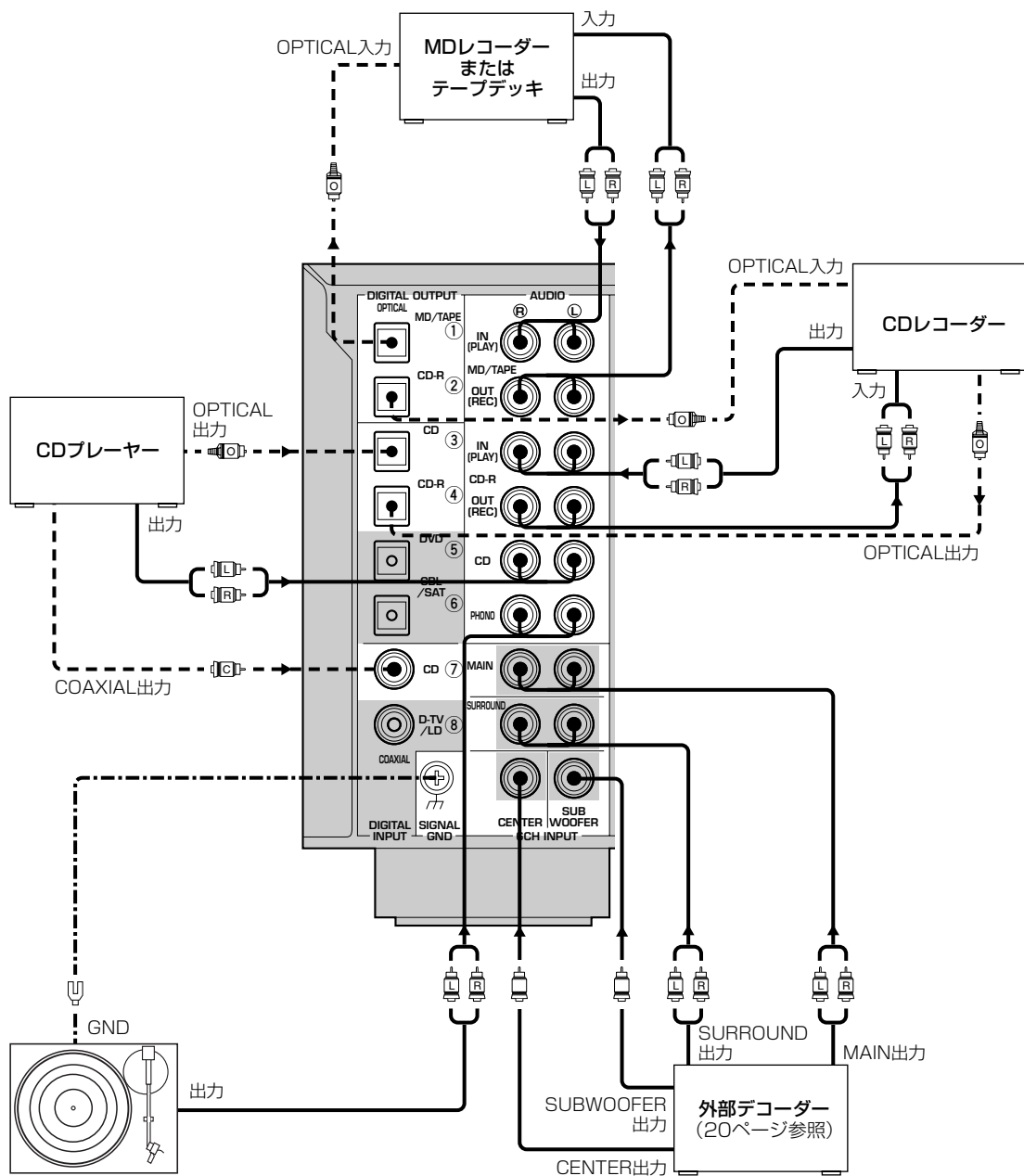
■MDレコーダー、テープデッキまたはCDレコーダーの接続

ヒント

- CDまたはDVDなどのデジタル信号だけがDIGITAL OUTPUT端子から出力されます。
- 録音機器をアナログとデジタルの入出力端子に接続した場合は、デジタル信号が優先されます。
- MDレコーダーをお使いになる場合は、CD、CD-R、DVD、CBL/SATのいずれかのデジタル入力端子に接続してください。この場合入力ソース名が異なりますので、セットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」(67、68ページ参照)で接続した端子名を「MD/TAPE」に変更してください。

ご注意

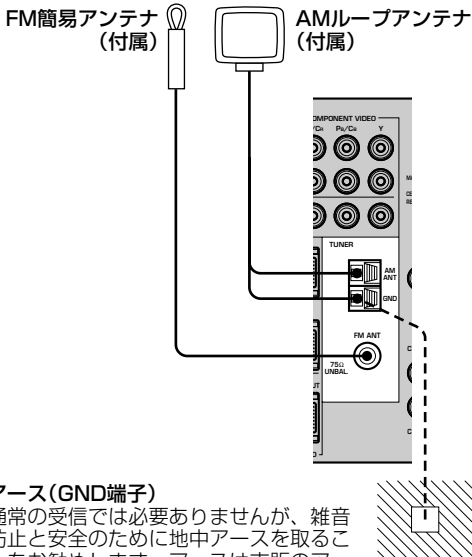
本機の使用中に録音機器が接続してあるときは、録音機器の電源を入れたままにしてください。録音機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。

準備

入力
OPTICAL入力
MDレコーダー
または
テープデッキ
出力
OPTICAL入力
CDレコーダー
出力
入力
OPTICAL
出力
CDプレーヤー
出力
OPTICAL出力
COAXIAL出力
DIGITAL OUTPUT
OPTICAL
AUDIO
MD/TAPE
IN
(PLAY)
OUT
(REC)
CD-R
CD
DVD
CBL
/SAT
PHONO
MAIN
SURROUND
D-TV
/LD
COAXIAL
DIGITAL
INPUT
SIGNAL
GND
CENTER
SUB
WOOFER
6CH INPUT
GND
出力
SURROUND
出力
MAIN出力
SUBWOOFER
出力
外部デコーダー
(20ページ参照)
CENTER出力
レコードプレーヤー
信号の流れ
ステレオピンケーブル(L/R)
光ファイバーケーブル
同軸ケーブル

アンテナの接続

本機にはAMループアンテナ及びFM簡易アンテナが付属しています。 付属のアンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。
各アンテナを端子に正しく接続してください。

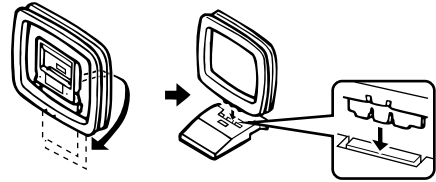
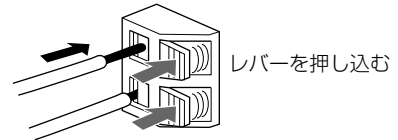
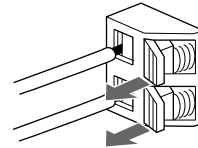
■FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

アース（GND端子）
通常の受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースを取ることをお勧めします。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

FM屋外アンテナを接続するときは

アンテナの同軸ケーブルを市販のF型コネクターを使って、FM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

■AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。

2 AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む。
コードに極性はありません。

3 レバーを放して、コードを固定する。
コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

ヒント

- 受信がうまくいかない場合はアンテナを左右に回し受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

ご注意

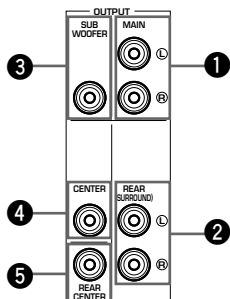
- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

準備

他のアンプとの接続

スピーカー出力をパワーアップする場合や、お手持ちのアンプを使用する場合などは、OUTPUT端子と外部パワーアンプ(プリメインアンプ)を接続します。

ご注意

- 他のアンプへ出力するためにRCAピンプラグをOUTPUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使用しないでください。また接続する外部アンプのボリュームは最大にしてください。
- セットメニュー「1G SP B SET」をZONE Bに設定して、SPEAKER AスイッチをOFFにした場合、MAIN以外のOUTPUT端子には信号が出力されません。

❶ MAIN端子

メインL、Rチャンネルの信号を出力します。

ご注意

この端子から出力される信号には、BASSコントロール、TREBLEコントロール、BASS EXTENSIONスイッチの設定が効きます。

❷ REAR(SURROUND)端子

リアエフェクトチャンネルの信号を出力します。

❸ SUBWOOFER端子

ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵スーパーウーファーを使用するときは、この端子につなぎます。
メイン、センターおよびリアチャンネルからの低音信号はこの端子に送られます(90Hz以下)。ドルビーデジタルやDTSデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

ご注意

セットメニュー「1 SPEAKER SET」、「10 LFE LEVEL」の設定によってはSUBWOOFER端子から出力されない信号もあります。

❹ CENTER端子

センターチャンネルの信号を出力します。

❺ REAR CENTER端子

リアセンターチャンネルの信号を出力します。

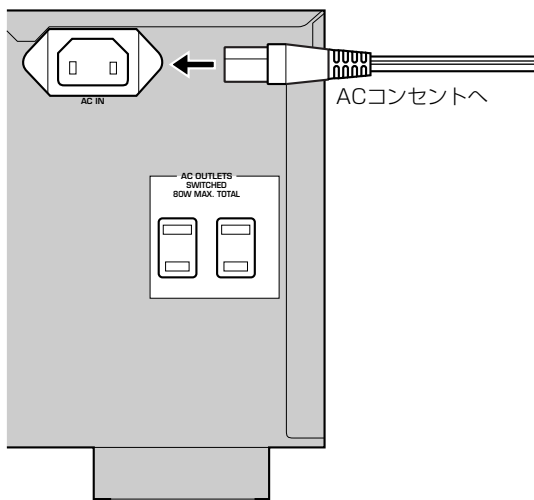
6CH INPUT端子への接続

6CH INPUT端子に6チャンネル外部デコーダー、プロセッサーやプリアンプなどを接続することができます。

外部デコーダーの出力端子を6CH INPUT端子につなぎます。メイン、サラウンドチャンネルの入出力のL、R端子が正しく接続されているか確認してください。

ご注意

- 6CH INPUTを選択した場合には6CH INPUT端子からの信号が最優先されます。
- 外部デコーダーからの入力音声には、本機の音場効果はかかりません。
- 6CH INPUT端子から入力した信号には、スピーカーモードの設定(セットメニューの1Aから1E)は適応されません。
- セットメニュー「15 6CH INPUT SET」の設定内容が反映されます。
- ヘッドホン使用時には、メインL、Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。「15 6CH INPUT SET」の設定は適用されません。

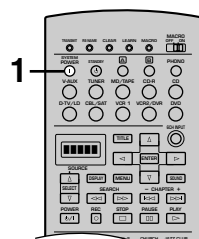
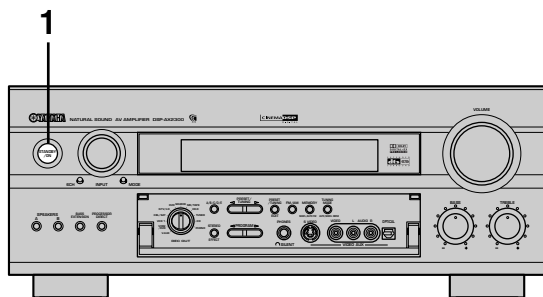
電源コードの接続

■電源コード

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。
本機に接続された機器の電源プラグも接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

■予備電源コンセント（AC OUTLETS SWITCHED）

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力80Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源を入れる

ここまでのすべての準備が終わったら、本機の電源を入れます。

1 STANDBY/ONスイッチ（またはリモコンのSYSTEM POWERキー）を押す。
本機の電源が入ります。

2 DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ（モニター）の電源を入れる。

準備

オンスクリーン表示

本機にモニター(テレビ、またはプロジェクター)を接続すると、本機の操作内容などを表示させることができます。セットメニューや音場パラメーターを設定する際に接続したモニターを利用すれば、項目や設定値が分かりやすく表示されるため、本体のディスプレイ表示に比べて見やすく便利です。

ヒント

- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- オンスクリーン表示はOUT(REC)に出力されないので映像と一緒に録画されることはありません。
- ビデオソースを再生していないとき(あるいは再生機器の電源が入っていないとき)に、セットメニューの「13 DISPLAY SET」でオンスクリーン表示のオート(グレーバック)／オフを設定できます(71ページ参照)。

表示の種類

オンスクリーン表示には次の3種類があります。

フル表示

音場プログラムのパラメーターが、常にモニター表示されます。

ショート表示

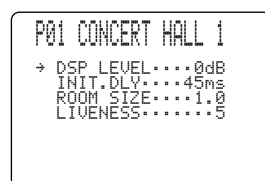
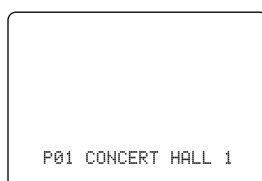
本体のディスプレイと同じ内容(操作状態)が、モニター画面の下に数秒間表示された後、消えます。

表示OFF

モニター画面の下に“DISPLAY OFF”が表示された後、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。

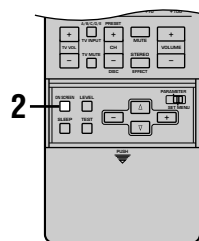
```
P01 CONCERT HALL 1
→ DSP LEVEL····0dB
  INIT.DLY····45ms
  ROOM SIZE····1.0
  LIVENESS·······5
```

フル表示例

```
P01 CONCERT HALL 1
```

ショート表示例

ヒント

- フル表示の場合、INPUTセレクターやVOLUMEコントロールなどの操作は、本体ディスプレイと同じ内容が画面下に数秒間表示されます。
- セットメニューやテストトーン時は、表示の種類にかかわらずオンスクリーン表示されます。

表示の切り替え

1 本機とモニターの電源を入れる。

2 ON SCREENキーを押す。

押すごとに、表示内容がフル表示→ショート表示→表示OFF→フル表示→…の順に切り替わります。

ご注意

- COMPONENT VIDEO/D4 VIDEOのMONITOR OUT端子に接続したモニターには、オンスクリーン表示が出ません。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を受信した場合、オンスクリーンの表示がブレたり、ズレたりすることがありますが、本機の故障ではありません。

スピーカーモードの設定

本機は6.1チャンネル対応のメインアンプを備えています。スーパーウーファーを含め最大7本のスピーカーを使用することができますが、お使いのスピーカーの数や大きさに合わせた最良の音場効果を得るためにスピーカーモードを設定することができます。
下記の表に記載されている初期設定値がお使いのスピーカーに合わない場合は、61～64ページの「1 SPEAKER SET」にて設定を変更してください。

SPEAKER SETの設定内容

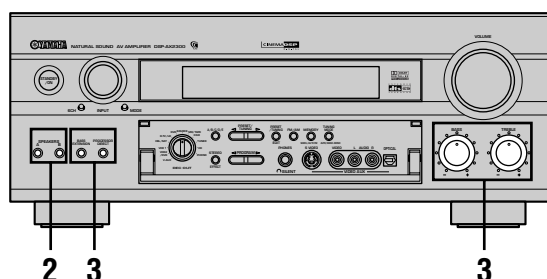
項目	設定内容	可変範囲(太字は初期設定)
1A CENTER SP	センタースピーカーの性能、サイズや有無に応じて、出力モードを選択します。	**LRG**/SML/NONE
1B MAIN SP	メインスピーカーの性能、サイズに応じて、出力モードを選択します。	**LARGE**/SMALL
1C REAR L/R SP	リアスピーカーL、Rの性能、サイズや有無に応じて、出力モードを選択します。	**LRG**/SML/NONE
1D REAR CT SP	リアセンタースピーカーの性能、サイズ、有無に応じて、出力モードを選択します。	**LRG**/SML/NONE
1E LFE/BASS OUT	LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選択します。	SWFR/MAIN/**BOTH**
1F MAIN LEVEL	メインスピーカーレベルを選択します。	**Normal**(ノーマル)/－10dB
1G SP B SET	スピーカーBの設置場所を設定します。	**MAIN**/ZONE B

スピーカーのレベル調節

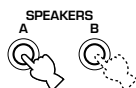
テストトーンを使ってリスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が一定になるように調節します。この調節はデジタル音場処理、ドルビープロロジックデコーダー、ドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーおよびAACデコーダーを最良の環境で使用するために重要です。

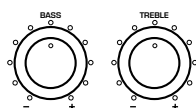
ご注意

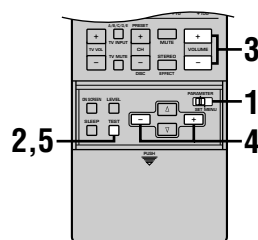
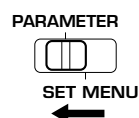
ヘッドホンをつないでいるとテストモードに入れません。PHONES端子からヘッドホンを抜いてください。

調節の前に行うこと

1 モニターの電源を入れる。

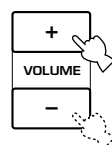
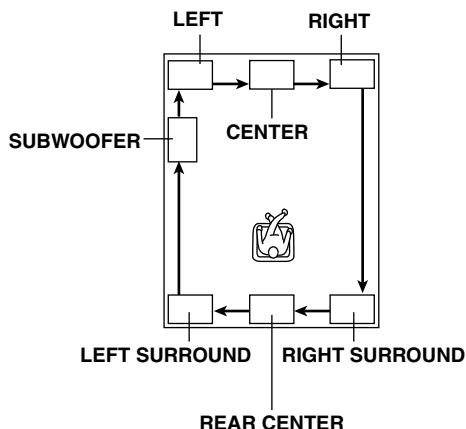
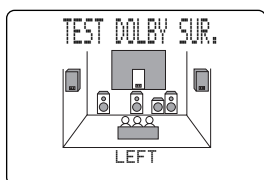
2 SPEAKERS AもしくはBを押して使用するメインスピーカーを選択する。

2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。

3 本体のトーンコントロール(BASS, TREBLE)を中央にセットし、BASS EXTENSIONスイッチとPROCESSOR DIRECTスイッチをOFFにする。

OFFにする

テストトーン (TEST DOLBY SUR.)

サラウンドサウンドシステムに必要なスピーカーの出力レベルを調節します。調節は必ずリスニングポジションで行います。調節が終わったらリスニングポジションに座ったまま、VOLUME+/－キーで調節した結果を確認してください。

1 PARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる。

2 TESTキーを押す。

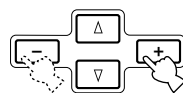
テストトーンが出力されます。

3 VOLUME＋/－キーで音量を調節する。

テストトーンは、上図のようにメインLスピーカー→センタースピーカー→メインRスピーカー→リアRスピーカー→リアセンタースピーカー→リアLスピーカー→スーパーウーファー...の順で巡回し、それぞれ約2.5秒間ずつ聴こえます。
テストトーンの出力状態は、リスニングルームのイラストでわかりやすくモニターに表示されます。

本機のディスプレイにテストトーンを出力しているスピーカーが次のように表示されます。
TEST LEFT→TEST CENTER→TEST RIGHT→TEST R SUR.→TEST REAR CNTR→TEST L SUR.→TEST SUBWOOFER→...

ご注意

テストトーンが聴こえない場合は、音量を絞り電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

4 調整したいスピーカーからテストトーンが出ている間に＋/－キーを押して、メインスピーカーの音量と同じになるように調節する。

調節中は、テストトーンは調節中のスピーカーからのみ出力されます。

ご注意

テストトーンモードではメインスピーカーの音量レベルの調節は単独ではできません。VOLUMEコントロールやリモコンのVOLUME＋/－キーで全体の音量レベルを調節してください。

5 調節が終わったら、TESTキーを押す。

テストトーンが止まります。

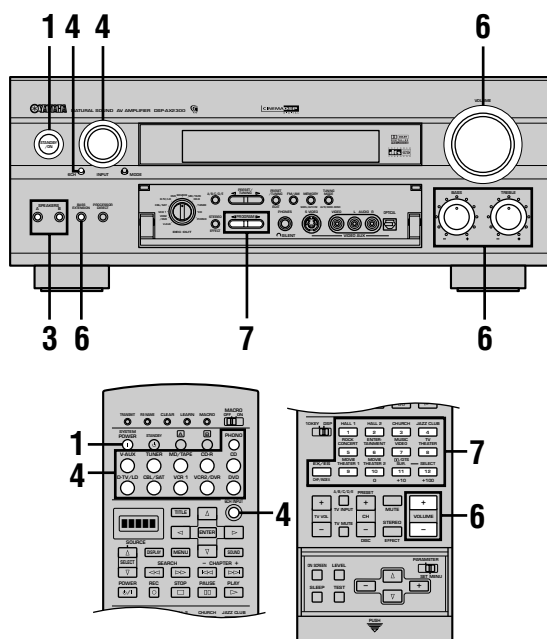
ご注意

- セットメニュー「1A CENTER SP」がNONEに設定されている場合は、センタースピーカーの信号は左右のメインスピーカーに同じレベルで振り分けられ、メインL、Rスピーカーから出力されます。この場合、センタースピーカーの音声出力レベルを調節することはできません。
- セットメニューの「1C REAR L/R SP」がNONEに設定されている場合は、リアL、Rおよびリアセンタースピーカーの出力レベルは手順4では調節できません。テストトーンはリアL、Rおよびリアセンタースピーカーをとばして巡回します。
- セットメニューの「1D REAR CT SP」がNONEに設定されているときは、リアセンタースピーカーの出力レベルは手順4では調節できません。テストトーンはリアセンタースピーカーをとばして巡回します。
- セットメニューの「1E LFE/BASS OUT」がMAINに設定されている場合は、テストトーンはスーパーウーファーをとばして巡回します。

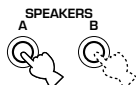
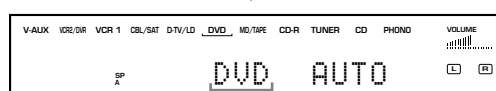
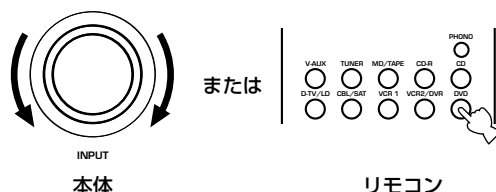
ヒント

- 再生するソースによっては、テストトーンで調節したスピーカーレベルがお好みに合わないことがあります。この場合は、実際の再生音を聴きながら調節してください(73ページ参照)。
- エフェクトスピーカー(センター、リアL、リアR、リアセンター)の音量レベルを＋10dBまで上げてもメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「1F MAIN LEVEL」を－10dBに設定して、メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げてください。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカー、リアセンタースピーカーおよびリアL、Rスピーカーのレベル調節をもう一度おこなってください。

音声／映像を再生する

本機に接続したオーディオ機器やビデオ機器のソフトを再生します。

1 **電源を入れる。**
本体のSTANDBY/ONスイッチ(またはリモコンのSYSTEM POWERキー)を押して電源を入れます。本体ディスプレイに音量レベルが数秒間表示されたあと、前回電源を切ったときのプログラムが表示されます。

2 **DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ(モニター)の電源を入れる。**

3 **音を出すメインスピーカーを選択する。**
本体のSPEAKERS A/Bスイッチを押して、使用するメインスピーカーを選択します。2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。

4 **再生するソースを選択する。**
本体のINPUTセレクターを回して(またはリモコンの入力選択キーを押して)、再生するソースを選択します。入力ソースを選択すると、本体ディスプレイとモニター画面に入力ソース名と入力モードを数秒間表示したあと、元の画面に戻ります。

ご注意

入力ソースは、本機に接続している機器名ではなく、その機器をつないでいる本機の端子名に対応しています。
例：ビデオデッキではなく、DVDプレーヤーを本機のVCR 1 IN端子に接続すると、ディスプレイにはVCR 1と表示されますが、実際にはビデオデッキではなく、DVDプレーヤーの音が出ます。

6CH INPUT端子に接続したオーディオソースを選択する

6CH(INPUT)キーを押します。ディスプレイに“6CH INPUT”と表示されます。

ご注意

- 映像と共に6CH INPUT端子に接続された音声を楽しみたい場合には、最初にビデオソースを選択して、次に6CH(INPUT)キーを押してください。
- “6CH INPUT”がディスプレイに表示されている場合は、ほかのソースを再生することはできません。別の入力ソースを選択するには、6CH(INPUT)キーを押してディスプレイから“6CH INPUT”の表示を消してください。

5 **機器の再生(または放送の受信)を始める。**
再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

コピーガード信号が入ったビデオソースを再生すると画像がブレることがあります。

6 **音量を調節する。**
本体のVOLUMEコントロールを回して(またはリモコンのVOLUME＋/－キーを押して)音量を調節します。

または

本体　リモコン

必要に応じてBASS、TREBLE、BASS EXTENSIONも調節してください。これらの調節はメインスピーカーから出力される音のみに有効です。

ご注意

- 高･低音域の音声を最大もしくは最小限まで増減すると、センター、リアL、R、リアセンタースピーカーから出力する音質はメインL、Rスピーカーからの音質と調和がとれなくなることがあります。
- OUT(REC)端子と接続している機器の電源が切れている場合には、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてください。
- BASS EXTENSIONはセットメニューの「1B MAIN SP」をSMALL、「1E LFE/BASS OUT」をSWFRに設定している場合は、効果はありません(62、63ページ参照)。

7 **音場プログラムを選択する。**
本体のPROGRAM ◁/▷ キー(またはリモコンの音場プログラムキー)を押して、音場プログラムを選択します。詳しくは29ページ「音場プログラムを選ぶ」を参照してください。

または

本体　リモコン

■BGV(バックグラウンドビデオ)機能

BGV機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます)。

ビデオ系ソースを選択した後、リモコンの入力選択キーで、オーディオ系ソースを選択します。

■一時的に音声を消す(消音する)

リモコンのMUTEキーを押す。
前の音量に戻すには、もう1度MUTEキーを押します。

ヒント

- VOLUME＋/－キーや音場プログラムキーなどを押しても消音は解除できます。
- 本機をスタンバイ状態にすると、消音が解除されます。
- 消音中(ミュート中)は、本体ディスプレイのMUTE表示が点滅します。

■本機の使用を終了する

本体のSTANDBY/ONスイッチ(またはリモコンのSTANDBYキー)を押して、本機をスタンバイ状態にする。

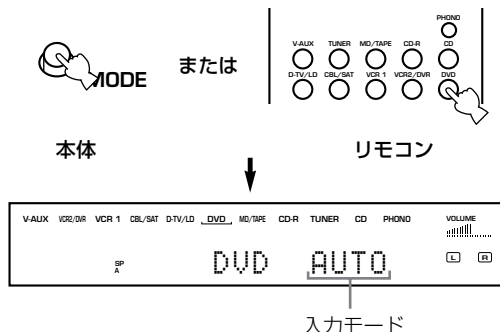
または

本体　リモコン

基本操作

入力モードを切り替える

入力信号のアナログ／デジタルの優先順位を選んだり、AACなどの特定の系統に固定したりすることができます。

希望する入力モードが本体ディスプレイに表示されるまで、MODEキー(または選択しているリモコンの入力選択キー)を繰り返し押す。

AUTO: 次の順序で入力信号が選ばれます。
1）デジタル信号
2）アナログ信号

DTS: DTS信号以外は再生されません。

AAC: AAC信号以外は再生されません。

ANALOG: アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ヒント

- 入力モードがAUTOに設定されているときに、ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、自動的に最適なデコーダーが選択されます。
- セットメニューの「8 INPUT MODE」で、本機の電源を入れたときに、前回指定した入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかを指定することもできます。

ご注意

- COAXIAL INPUT端子とOPTICAL INPUT端子へ同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL INPUT端子への入力信号が優先されます。
- 入力モードがAUTOに設定されているときに、次のような症状が起こることがありますが、故障ではありません。
  – ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ(検索)してから再生をはじめると、一部のLDおよびDVDプレーヤーで、再生音が少し遅れて再生される。
  – デジタル録音されていないLDを再生する場合に、一部のLDプレーヤーで音声が正常に再生できない。この場合は入力モードをANALOGに設定して、お使いください。

■デジタル信号に関するご注意

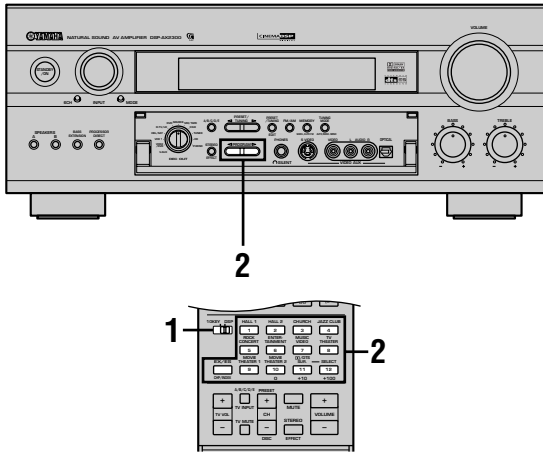
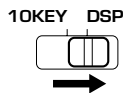
本機のデジタル入力端子(OPTICAL、COAXIAL)は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。デジタル信号の入力にはOPTICAL/COAXIAL両方の入力端子が使用できますが、48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。

- 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカーから通常の2チャンネルステレオ音声として出力されます。
- スーパーウーファーを除いて、エフェクトスピーカーの音量調節ができなくなります。

■DTS-CD/LDのDTS音声の再生に関するご注意

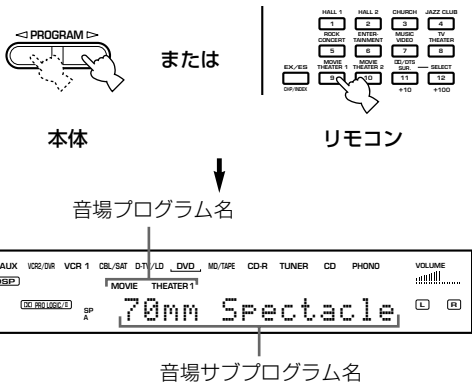
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に音量レベル可変処理などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生できません。
- DTS音声を再生するには、音声を再生する機器をデジタル入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生した場合、雑音が発生することがあります。
- DTS音声を再生中に入力モードをANALOGに切り替えると、音声は出力されません。
- 入力モードをAUTOに設定してDTS音声を再生する場合は：
  – 本機はDTS信号を検知すると、自動的にDTSモード(dts表示が点灯)に切り替わります。DTS音声の再生が終了したときに、dts表示が点滅することがありますが、点滅中はDTS音声しか再生できません。DTS音声の再生が終了後すぐに、通常のPCM音声を再生したいときは、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
  – プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号がとぎれると、dts表示が点滅することがあります。この状態が30秒以上続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル(PCM)入力に切り替わり、dts表示は消灯します。

音場プログラムを選ぶ

本機には、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つCINEMA-DSP音場プログラムを内蔵しています。
再生するときにお好みの音場を呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。各音場プログラムについて詳しくは、36、37ページをご覧ください。

1 10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせる。

2 音場プログラムを選択する。
本体のPROGRAM ◁/▷ キー（またはリモコンの音場プログラムキー）を押して、音場プログラムを選択します。
音場プログラム内のサブプログラムを選択するには、本体のPROGRAM ◁/▷ キー（またはリモコンの同じ音場プログラムキー）を押します。

- **例：**MOVIE THEATER 1を押すごとにサブプログラム（「Spectacle」と「Sci-Fi」）が切り替わります。

音場プログラム名

70mm Spectacle

音場サブプログラム名

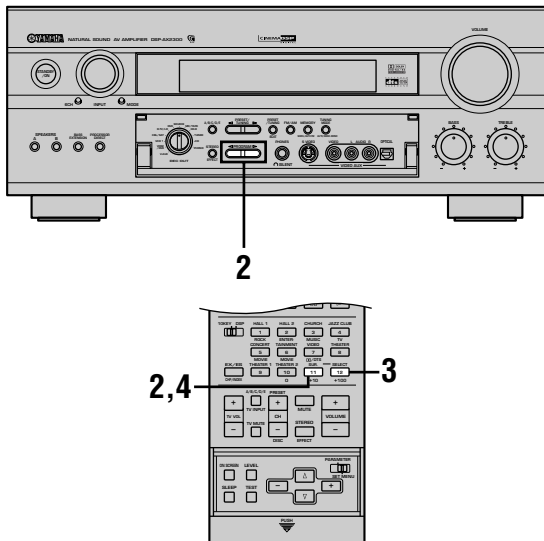
ご注意

- 本機では、お好みにより、全部で11の音場プログラムを選択できます。ただし、一部の音場プログラムでは入力信号の種類に適したデコーダーと音場サブプログラムが自動的に選択されます（38ページ参照）。
- 入力ソースを切り替えると、そのソースに対して設定された音場プログラムを自動的に選択します。
- 6CH INPUT端子に接続しているソースを再生しているときと、サンプリング周波数が48kHzを超えるデジタル信号が本機に入力されているときは、音場プログラムは使用できません。
- リスニングルームの音響効果は、音場プログラムに影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内に反響しやすい物体をできるだけ置かないようにしてください。
- 入力モードがAUTOに設定されている場合にはドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、選択している音場プログラムによっては、入力ソースに対応した音場サブプログラムに自動的に切り替わる場合があります（38ページ参照）。
- 本機をスタンバイ状態にしたときの入力ソースと音場プログラムは記憶されています。電源を入れると、自動的に前回の状態に戻ります。
- モノラルソースをPRO LOGIC/Normal、PRO LOGIC/Enhanced、PRO LOGIC II MovieやNeo:6 Cinema音場で再生中は、センタースピーカーからのみ音が出ます。メインスピーカーやリアスピーカーからは音は出ません。ただし、セットメニューの「1A CENTER SP」がNONEに設定されているときは、センターチャンネルの音声はメインスピーカーから出力されます。

ヒント

音場プログラムはプログラム名ではなく、ご使用になるリスニングルームの状況やお好みに合わせてお選びください。

PRO LOGIC/PRO LOGIC II/DTS Neo:6を選ぶ

音場プログラムNo.11でPRO LOGIC、PRO LOGIC IIまたはNeo:6を選択すると、2チャンネルソースを多チャンネル化してお楽しみいただけます。

1 2チャンネルソースを再生する。

2 （本体で操作する場合）

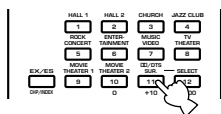
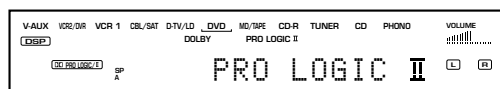
デコーダーおよびサブプログラムを選択する。

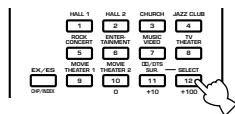
本体のPROGRAM ◁/▷ キーを繰り返し押してPRO LOGIC(Normal/Enhanced)、PRO LOGIC II(Movie/Music)またはNeo:6(Cinema/Music)を選択します。

本体

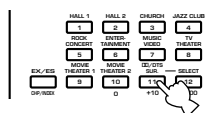
（リモコンで操作する場合）

音場プログラムNo.11を選択する。

DD/DTS SUR.キーを押すと、前回使用したデコーダー、続いてサブプログラムが本体ディスプレイに表示されます。

リモコン

3 デコーダーを選択する。

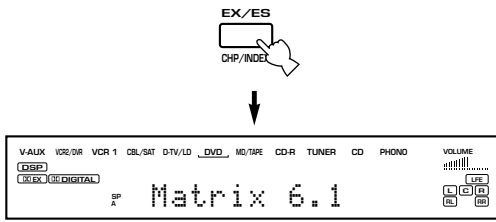
SELECTキーを繰り返し押して、PRO LOGIC/PRO LOGIC IIまたはNeo:6を選択します。

4 ソースに合ったサブプログラムを選ぶ。

DD/DTS SUR.キーを押すたびに、以下のようにサブプログラムが切り替わります。

- PRO LOGICを選んだとき
  Normal ↔ Enhanced
- PRO LOGIC IIを選んだとき
  Movie ↔ Music
- Neo:6を選んだとき
  Cinema ↔ Music

ご注意

- 2チャンネル音声以外の信号は、PRO LOGIC、PRO LOGIC IIとDTS Neo:6デコーダーでは再生できません。
- AACの2チャンネルステレオ信号はDTS Neo:6デコーダーでは再生できません。

■ ドルビーデジタルEXやDTS ESのソースを再生する

ドルビーデジタルEX方式やDTS-ES方式(ディスクリート6.1、マトリクス6.1)のソフトを6.1チャンネル再生するときは、EX/ESキーを押します。

(例：ドルビーデジタルEX方式のソフトを再生しているとき)

EX/ESキーを押して、再生モードを以下から選択します(再生するソフトの方式により、選択できるモードが変わります)。

AUTO：　本機が認識できる信号で記録されたソースが入力されると、ディスクリート音声とマトリクス音声にそれぞれ自動的に切り替わります。認識できない信号の場合(「AUTO:- - -」と表示されている場合)は、EX/ESキーを押して、「Matrix 6.1」を選択してください。

Discrete 6.1：　DTS ESディスクリート音声入力時のみ選択できます。DTS ESディスクリート音声をディスクリート6.1方式で再生します(DISCRETEインジケーター点灯)。再生の途中で、DTS ESディスクリート音声以外のリアL/R成分がある音声に切り替わると、マトリクス6.1方式で再生します(EXまたはMATRIXインジケーター点灯)。

Matrix 6.1：　ドルビーデジタルEX方式やDTS ES方式のソフトやAACの5.1チャンネル信号など、リアL/R成分のある音声を、マトリクス6.1方式で再生します(MATRIXインジケーター点灯)。

OFF：　ディスクリート6.1/マトリクス6.1再生をオフにします。

ご注意

- 6.1チャンネル対応ディスクには、本機が自動的に認識できる信号(フラグ)が記録されていないものがあります。このようなディスクを6.1チャンネルで再生するには「Matrix 6.1」を選択してください。
- 以下の場合は、EX/ESキーを押しても、6.1チャンネル再生はできません。
  - セットメニュー「1C REAR L/R SP」をNONEに設定している。
  - 音場効果を切っている(「STEREO」と表示されている)。
  - 6CH INPUT端子に接続しているソースを再生している。
  - リアL/R成分が含まれていないソースを再生している。
  - ドルビーデジタルKARAOKEソースを再生している。
  - ヘッドホンを接続している。
  - 6ch Stereoを選んでいる。
- 電源をOFFするとAUTOにリセットされます。

■ リアスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

セットメニューの「1C REAR L/R SP」をNONEに設定すると、バーチャルシネマDSP音場を楽しめます。
入力ソースの音声はバーチャルシネマDSPで音場処理され、選んだ音場プログラムでメインスピーカー(L、R)、センタースピーカーおよびスーパーウーファーから音声が再生されます。

ご注意

- 下記の場合は、セットメニュー「1C REAR L/R SP」がNONEに設定されていても、バーチャルシネマDSPにはなりません。
  - 6ch StereoやPRO LOGIC/Normal、DOLBY DIGITAL/Normal、DTS Normal、AAC Normal、PRO LOGIC II、Neo:6音場プログラムを選んでいる。
  - 音場効果が「切」(STEREO)になっている。
  - 本機の6CH INPUT端子に接続されたソースを再生している。
  - サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されている。
  - テストトーンを使用している。
  - ヘッドホンを接続している。

■ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシアター)

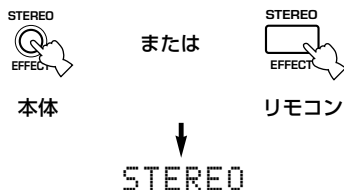
ステレオ音声再生状態でないときにヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現できる、サイレントシアターで音声を楽しめます。「SILENT」表示が本体ディスプレイに点灯します。(音場効果がオフの状態では通常のステレオ再生になります。)

ご注意

- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されているときは、サイレントシアターは作動しません。
- 6CH INPUT端子に入力された信号を再生しているときは、サイレントシアターは働きません。
- LFEチャンネル音声は他のチャンネルとミックスされて、ヘッドホンから出力されます。

■ステレオ音声(2チャンネル)で再生する

STEREO/EFFECTキーを押して、「STEREO」を表示させる。

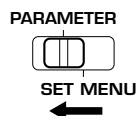
音場効果が「切(オフ)」になり、メインスピーカーL/Rのみを使って再生します。STEREO/EFFECTキーをもう1度押すと、音場効果が「入(オン)」になります。

ご注意

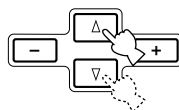
- 音場効果がオフの状態(ステレオ音声)のときにドルビーデジタルやDTS、AAC音声を再生すると、LFEを除くすべてのチャンネルの音声がメインのL、Rチャンネルにミックスされて出力されます。この場合、メインL、Rチャンネルの音量バランスが乱れることがあります。
- 音場効果をオフ(ステレオ音声)にすると、センター、リアL/R、リアセンタースピーカーから音は出ません。
- 音場効果をオフ(ステレオ音声)にしたり、セットメニューの「11 D-RANGE」をMINに設定すると、音量が極端に下がることがあります。このような場合は音場効果をオンにしてください。
- セットメニューの「1B MAIN SP」をSMALLかつ「1E LFE/BASS OUT」をSWFR、または「1E LFE/BASS OUT」をBOTHに設定している場合は、スーパーウーファーから低音域が出力されます。

■入力信号情報を表示する

ステレオ再生中(音場効果オフ時)、入力信号のタイプ、フォーマットやサンプリング周波数などの情報をディスプレイに表示できます。

(ソース再生中)

1 **PARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる。**

2 **∆/∇ キーを押す。**

入力信号の情報が表示されます。

ヒント

- (Format):入力信号の信号フォーマット。デジタル入力を認識できない場合は、アナログモードに設定されます。

入力信号	表示
アナログ音声	Analog
PCM音声	PCM
ドルビーデジタル音声	Dolby Digital
DTS音声	DTS
AAC音声	AAC
不明なデジタル信号	Unknwn Digital

- fs:入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)。サンプリング周波数が不明の場合は、「unknown」と表示されます。
- (Audio Channels):入力信号の音声チャンネル数(ドルビーデジタル／DTS／AAC入力時のみ)。
例えば、「in:3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル／リア2チャンネル／ LFE」を示しています。
また、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネル音声は「1+1」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。
- rate(bit rate):入力信号の1秒あたりのデータ量[ビットレート](ドルビーデジタル／DTSのみ)。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。
- flg(flag):入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号[フラグ](ドルビーデジタル／DTSのみ)。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

音場プログラム一覧

音場とは・・・

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。
建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを本機に搭載したROM(専用メモリー)に蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームに再現することができます。

ご注意

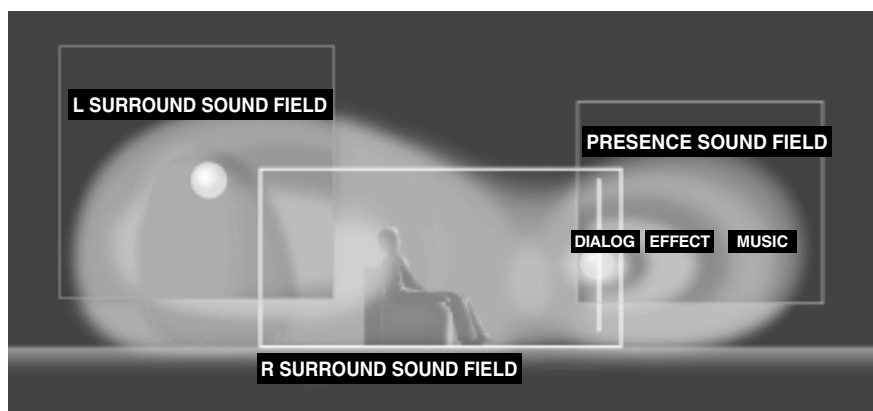
- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられることがありますが、故障ではありません。
- 名称や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

Hi-Fi DSP音場プログラム

コンサートホールやオペラハウスの音場をリスニングルームに再現するということは、コンサートホールやオペラハウスの仮想音源の分布をリスニングルームに定位させること、とも言えるでしょう。
演奏会場での音場をリスニングルームに再現するには、2本のスピーカーによる従来のステレオ再生では不十分です。音場再生用には4本のエフェクトスピーカーを使って、音場データの仮想音源を定位させ、音場を再現するのがヤマハDSP(デジタル音場プロセッサー)です。
これは、4本のエフェクトスピーカーから出力させる信号の強さや遅延時間をコントロールすることによって、360°全周方向に分布する仮想音源を定位させ、音場を再現するものです。

CINEMA DSP音場プログラム

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、AACの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA DSP音場プログラムでは、L.C.Rチャンネルにもヤマハ DSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。
ドルビーデジタル信号、DTS、AAC信号が入力されると、自動的にドルビーデジタル、DTSやAACに対応した音場処理に最適化されます。

ストレートデコード

本機は下記のような数多くのデコーダーを装備しています。

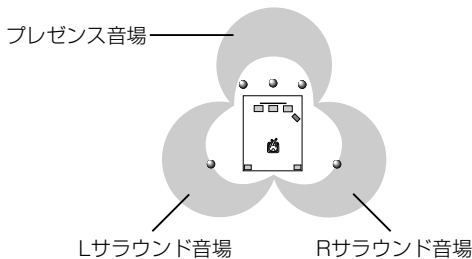
- マルチチャンネルソース用のドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー
- リアセンターチャンネル音声再生用のドルビーデジタルEX、DTS-ESデコーダー
- ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用のドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、DTS Neo:6デコーダー

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、プログラム11（サブプログラムの“Enhanced”は除く）のストレートデコードモードを選んでください。この場合、DSP音場効果はかからず DSP インジケーターは点灯しません。

サラウンド音場

■MOVIE THEATER

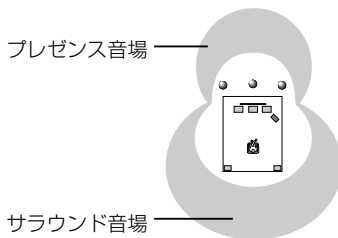
マトリクス処理を行わない70mmフィルムの6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がりを、ダビングステージ(映画の音声を編集するための編集スタジオ)のクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER 70mmプログラムです。最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)やAACのサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーおよびAACデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタル、DTSやAACサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

■ [ドルビーデジタル、DTS、AAC]＋[DSP音場効果]

入力ソースがドルビーデジタル、DTS、AAC(5.1チャンネル)の場合

ドルビーデジタルやDTS、AACのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

■ [ドルビーデジタルEX、DTS-ES、AAC ドルビーEX]＋[DSP音場効果]

リアセンタースピーカーから再現されたリアセンター音場が加わり、より雄大な音場空間を再現します。

■ [ドルビープロロジック]＋[DSP音場効果]

通常、ビデオテープなどの市販の映画ソフトは、ドルビーサラウンドのマトリクス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード･デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

■ ドルビープロロジックII／DTS Neo:6

ドルビープロロジックIIとDTS Neo:6デコーダーは2チャンネルを5または6チャンネルにデコードします。映画用のMovie/Cinemaと2チャンネルオーディオソース用の Musicの2種類のモードがあります。

DSPプログラムの特長

各DSPプログラムには下記のような特長があります。

モード	ソースのタイプ	No.	プログラム	サブプログラム	特長
Hi-Fi DSP（ハイファイ）	音楽向け	1	CONCERT（コンサート） HALL（ホール） 1	–	ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。
		2	CONCERT（コンサート） HALL（ホール） 2	–	円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。
		3	CHURCH（チャーチ）	–	120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。左後方に強い反射音がありますので、左後方が大きめに聞こえます。
		4	JAZZ（ジャズ） CLUB（クラブ）	–	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ·ボトムライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
		5	ROCK（ロック） CONCERT（コンサート）	–	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。左後方に強い反射音がありますので、左後方が大きめに聞こえます。
		6	ENTERTAINMENT（エンターテイメント）	Disco（ディスコ）	ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
				6ch（チャンネル） Stereo（ステレオ）	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長のホームパーティーを演出する音場プログラムです。
CINEMA（シネマ） DSP	ビデオ向け	6	ENTERTAINMENT（エンターテイメント）	Game（ゲーム）	ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与えるプログラムです。音源がモノラルでもステレオでも有効で、迫力のあるTVゲームが楽しめます。
		7	MUSIC（ミュージック） VIDEO（ビデオ）	–	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。
		8	TV（テレビ） THEATER（シアター）	Mono（モノラル） Movie（ムービー）	往年のモノラル映画の雰囲気を臨場感たっぷりに再現するモノラルソース用のプログラムです。オペラハウス系の音場をベースに、適度な音場処理を加えています。
				Variety（バラエティー）/ Sports（スポーツ）	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現します。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

モード	ソースのタイプ	No.	プログラム	サブプログラム	特長
CINEMA DSP	映画向け	9	MOVIE THEATER 1	Spectacle	映画のワンシーンに飛び込んだような、超ワイドな空間がイメージできる音場です。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に最適です。
				Sci-Fi	セリフと音楽、効果音をクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ音場を演出します。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に特に適しています。
		10	MOVIE THEATER 2	Adventure	セリフの定位や映像に対する立体的な音場表現力に優れたモードです。アクション映画などにおける最新のサウンドデザインを忠実に再現します。
				General	響きを抑えた明瞭なセリフ、画面の周囲と奥に広がる立体的な音場と柔らかな響きが特長です。ラブストーリーやコメディーなど、人の心の動きを描写する作品に適しています。
		11	DOLBY DIGITAL	Enhanced	ドルビーデジタル、DTS、AACのサラウンド信号にDSPの音場効果を与えます。
			DTS DIGITAL SUR	Enhanced	
			AAC DIGITAL SUR	Enhanced	
			PRO LOGIC	Enhanced	
STRAIGHT DECODE		11	DOLBY DIGITAL	Normal	ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用です。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
			DTS DIGITAL SUR	Normal	
			AAC DIGITAL SUR	Normal	
			PRO LOGIC	Normal	2チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
			PRO LOGIC II	Movie	
				Music	
			DTS Neo:6	Cinema	
				Music	

基本操作

入力信号別音場プログラム名一覧

CINEMA DSP音場プログラムNo.9～11のプログラム名は、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により名前が変わります。

No.	入力信号 / プログラム	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2ch)、DTS(2ch)、AAC(2ch)	ドルビーデジタル	DTS	AAC
9	MOVIE THEATER 1	70mm Spectacle	DGTL Spectacle *1Spectacle EX	DTS Spectacle *2Spectacle ES	AAC Spectacle *1Spectacle EX
		70mm Sci-Fi	DGTL Sci-Fi *1Sci-Fi EX	DTS Sci-Fi *2Sci-Fi ES	AAC Sci-Fi *1Sci-Fi EX
10	MOVIE THEATER 2	70mm Adventure	DGTL Adventure *1Adventure EX	DTS Adventure *2Adventure ES	AAC Adventure *1Adventure EX
		70mm General	DGTL General *1General EX	DTS General *2General ES	AAC General *1General EX
11	DOLBY DIGITAL/ DTS/ AAC SURROUND	―――	DOLBY DIGITAL/ Normal *1DOLBY DIGITAL/ Dolby D EX	DTS DGTL SUR/ Normal *4DTS DGTL SUR/ ES Matrix 6.1 *3DTS DGTL SUR/ ES Dscrt 6.1	AAC DIGITAL SUR/ Normal *1AAC DIGITAL SUR/ Dolby EX
		―――	DOLBY DIGITAL/ Enhanced *1DOLBY DIGITAL/ EX Enhanced	DTS DGTL SUR/ Enhanced *2DTS DGTL SUR/ Enhanced ES	AAC DIGITAL SUR/ Enhanced *1AAC DIGITAL SUR/ Enhanced EX

リモコンのEX/ESキーを押すと5.1チャンネルのソースをリアセンターも使って6.1チャンネルで再生できます(31ページ参照)。

*1 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時(DD EXインジケーター点灯時)

*2 DTS-ESディスクリートまたはマトリクスデコーダー動作時(ES DISCRETEまたはES MATRIXインジケーター点灯時)

*3 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時(ES DISCRETEインジケーター点灯時)

*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時(ES MATRIXインジケーター点灯時)

ご注意

AACの2チャンネルステレオ信号は、DTS Neo:6デコーダーでは再生できません。

入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

	2チャンネル音声 （モノラル）	2チャンネル音声 （ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声 （EXまたは ES DISCRETE/ MATRIX表示消灯時）	5.1/6.1チャンネル音声 （EXまたは ES DISCRETE/ MATRIX表示点灯時）
① CONCERT HALL 1 ② CONCERT HALL 2 ③ CHURCH ④ JAZZ CLUB ⑤ ROCK CONCERT ⑥ ENTERTAINMENT Disco				
⑥ ENTERTAINMENT 6ch Stereo				―
⑥ ENTERTAINMENT Game ⑦ MUSIC VIDEO ⑧ TV THEATER ⑨ MOVIE THEATER 1 ⑩ MOVIE THEATER 2				
⑪ DOLBY DIGITAL/ DTS/ AAC SURROUND/ DOLBY PRO LOGIC Normal Enhanced	(PRO LOGIC)	(PRO LOGIC)		
⑪ PRO LOGIC II	(Movie) (Music)		―	―
⑪ DTS Neo:6	(Cinema) (Music)		―	―

ご注意

再生するソースに含まれている信号成分によっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合せて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

表の見かた

表中のイラストは、6つのスピーカーを示します。

L：メインLスピーカー
C：センタースピーカー
R：メインRスピーカー
RL：リアLスピーカー
RC：リアセンタースピーカー
RR：リアRスピーカー

イラスト中の各スピーカーのイラストは、音が出ているかどうかを示します。

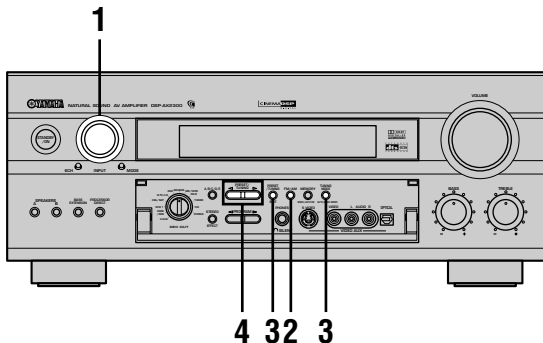
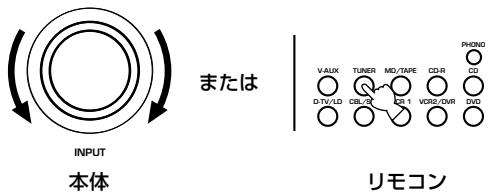
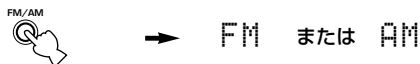
音が出ているスピーカー

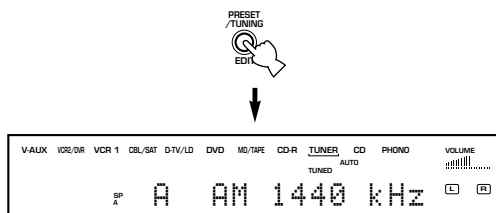
音の出ていないスピーカー

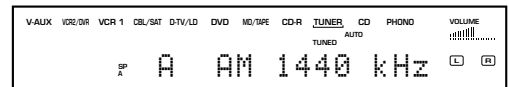
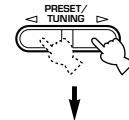
FM/AM放送を聴く

選局する

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類があります。電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。

■ 自動的に選局する（オート選局）

1 INPUTセレクターを回して（またはリモコンのTUNERキーを押して）、「TUNER」を選ぶ。

2 FM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。

3 TUNING MODE（AUTO/MAN' L MONO）キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。

ディスプレイのバンド表示の隣にコロン（:）が点灯している時は、PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消します。

4 PRESET/TUNING ⊲/⊳ キーを押して、受信したい放送局を選ぶ。

高い周波数の放送局を探すときは ⊳ キー、低い周波数の放送局を探すときは ⊲ キーを押します。

放送局を受信すると、ディスプレイに「TUNED」が点灯し、周波数が表示されます。

ヒント

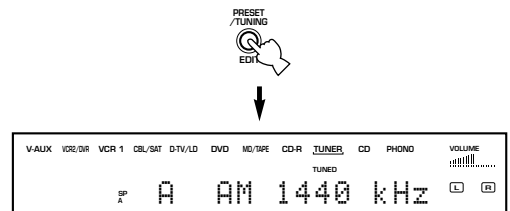
電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時は、手動で選局してください（マニュアル選局）。

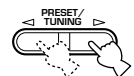
■ 手動でお好みの放送局を選ぶ（マニュアル選局）

電波の弱い放送局は、手動で選ぶ必要があります。

1 左記載の「自動的に選局する（オート選局）」の手順2までの操作をおこなう。

2 TUNING MODE（AUTO/MAN' L MONO）キーを押して、ディスプレイのAUTOインジケーターを消す。

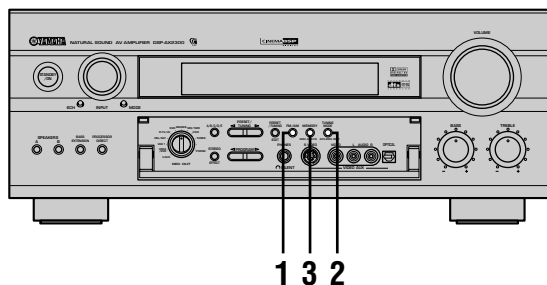
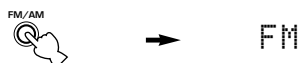
ディスプレイのバンド表示の隣にコロン（:）が点灯している時は、PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消します。

3 PRESET/TUNING ⊲/⊳ キーを押す。

押し続けると、連続して周波数が変わります。

ヒント

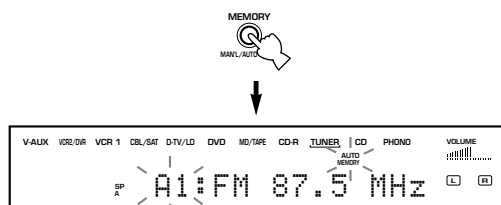
マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音を軽減できます。

放送局を登録する(プリセット)

■FM放送局を自動登録する (オートプリセット)

FM放送局を自動的に40局(8局×5グループ)まで登録(プリセット)できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができ、便利です。

1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ。

2 TUNING MODE(AUTO/MAN' L MONO)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。

3 MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを約3秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。 数秒後に、周波数表示が高くなり始めます。(オートプリセット開始。)

オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます(43ページ参照)。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

ご注意

- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局と、AM放送局を登録したいときは、受信モードをモノラルにして、手動で登録してください(次ページ)。

■登録を始めるプリセット番号を指定する(オートプリセットオプション)

FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを始めることもできます。

1 左記載の「FM放送局を自動登録する(オートプリセット)」の手順2までの操作をおこなう。

2 MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを約3秒押し続けたあと、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING ◁/▷ キーを押して、最初に登録させたいプリセット番号を選ぶ。

放送局が「E8」まですべて登録されると、オートプリセットが停止します。

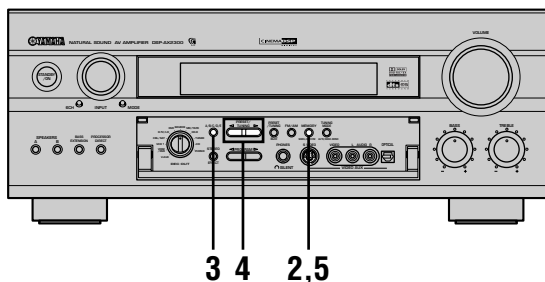
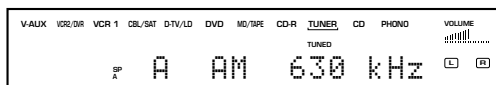
3 PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロン(:)を消してから、PRESET/TUNING ◁ キーを押す。

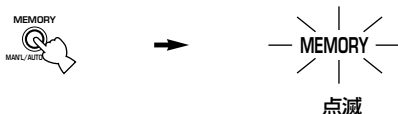
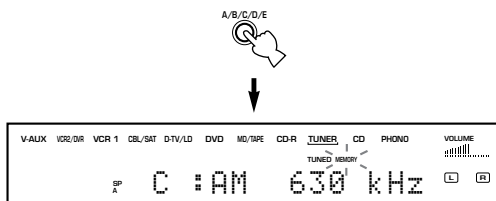
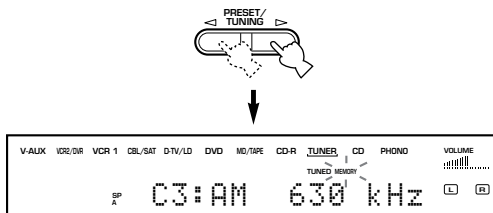
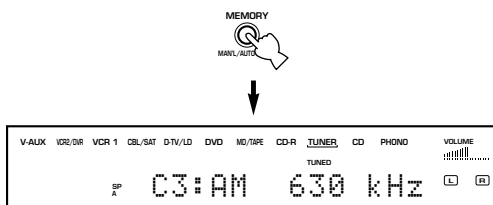
周波数表示が低くなり始めます。(オートプリセット開始。)

本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)、プリセットの設定内容は本機に記憶されています。ただし、電源「切」の状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。

基本操作

■手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局40局までを手動で登録することもできます。

1 **プリセットしたい放送局を選局する。**
詳しくは「選局する」(40ページ)をご覧ください。

選局時には、ディスプレイに受信している局の周波数と放送バンド(FMまたはAM)が表示されます。

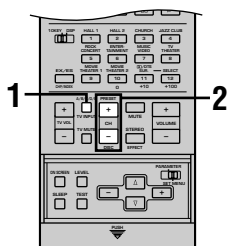
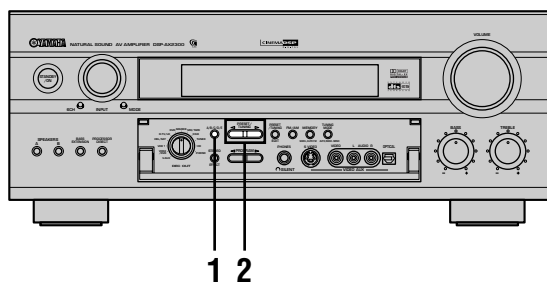
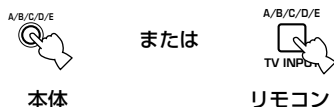
2 **MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを押す。**
ディスプレイにMEMORYインジケーターが約5秒間点滅し、登録できる状態になります。

3 **MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ(A〜E)を選ぶ。**
グループが表示されます。バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。

4 **MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING ⊲/⊳ キーを押して、プリセット番号(1〜8)を選ぶ。**
⊳ キーを押すと数が増え、⊲ キーを押すと減ります。

5 **MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを押す。**
選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(FMまたはAM)、周波数がディスプレイに表示されます。

C3に登録された局を示しています。

6 **他の放送局を続けて登録するときは、手順1〜5を繰り返す。**

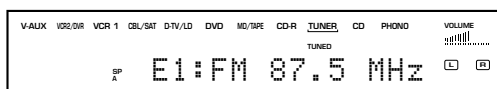
ご注意

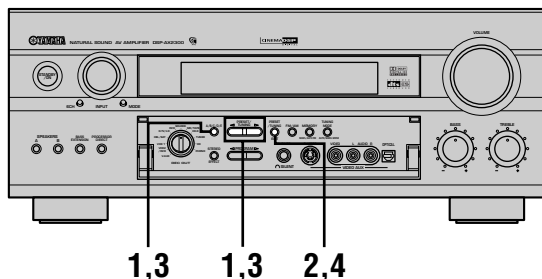
- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード(ステレオ／モノラル)も同時に登録されます。

登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

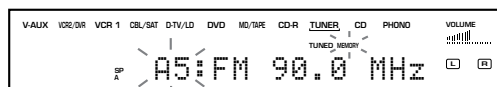
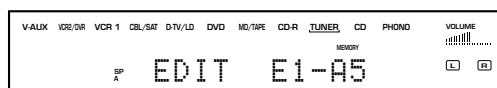
プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。

1 **A/B/C/D/Eキーを何回か押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。**
ディスプレイに表示されるプリセットグループはA/B/C/D/Eキーを押すたびに切り替わります。

ご注意

リモコンで操作する場合は、操作面が“TUNER”になっていることを確認してから操作してください。

2 **本体のPRESET/TUNING ⊲/⊳ キー（またはリモコンのPRESET＋/－キー）を押して、プリセット番号を選ぶ。**
プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド（FMまたはAM）と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

登録した放送局を入れ替える

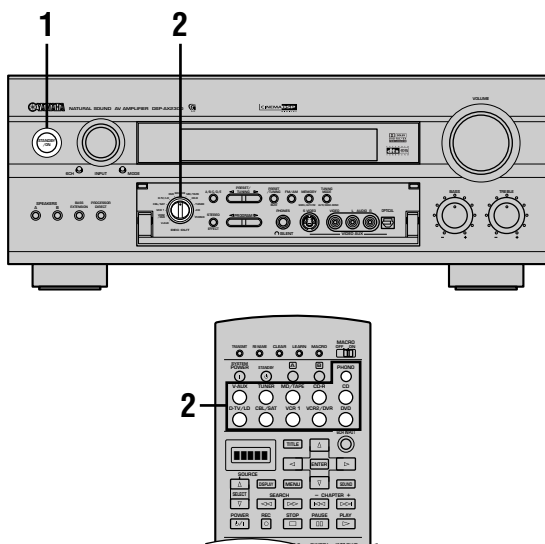
登録した放送局を入れ替えることもできます。
ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1 **「E1」に登録した放送局を選局する。**
詳しくは、左記載の「登録した局を選んで聴く（プリセット選局）」をご覧ください。

2 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを約3秒間押す。**
「E1」とMEMORYインジケーターがディスプレイに点滅します。

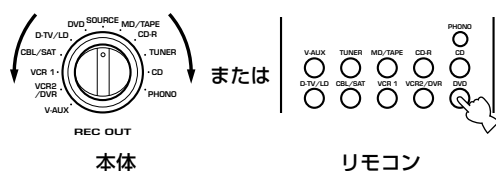
3 **「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING ⊲/⊳ キーを使って選局する。**
「A5」とMEMORYインジケーターがディスプレイに点滅します。

4 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを押す。**
プリセット局が入れ替わります。

プリセットした局の入れ替えが完了したことを示しています。

基本操作

録音／録画する

本機はREC OUTセレクターを装備しているため、再生中のソースを録音／録画、または再生中のソースとは別のソースを録音／録画することができます。

1 **本機および本機に接続されているすべての機器の電源を入れる。**

2 **REC OUTセレクターを回して、録音／録画したいソースを選択する。**

本体　　リモコン

見ている（聴いている）ソースを録音／録画する場合：
REC OUTセレクターを「SOURCE」の位置に合わせます。
見ている（聴いている）ソースとは別のソースを録音／録画する場合：
REC OUTセレクターを録音／録画したいソースの位置に合わせます。

3 **ソースの再生を始める。**
再生する機器の取扱説明書を参照してください。

4 **録音／録画を開始する。**
録音／録画する機器の取扱説明書を参照してください。
録音／録画中に見ている（聴いている）ソースを別のソースに変更する場合は、INPUTセレクターでソースを選択することができます（REC OUTセレクターを「SOURCE」以外に合わせているときのみ）。

ご注意

- 録音／録画をする前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機のDSP処理による音場効果は録音できません。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音／録画することはできません。
- 録音中にBASSコントロール、TREBLEコントロール、BASS EXTENSIONスイッチ、VOLUMEコントロールや音場プログラムなどを操作しても、録音される音声には影響しません。
- 入力ソースのOUT（REC）端子からは、信号は出力されません。
- S VIDEO端子に入力されたSビデオ信号はS VIDEO端子からのみ録画できます。同様に、VIDEO端子に入力されたビデオ信号はVIDEO端子からのみ録画できます。
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。
- 6CH INPUT端子に入力された信号は録音できません。
- ドルビーデジタルRF信号はREC OUT出力されません。
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

ヒント

REC OUTセレクターを「SOURCE」に合わせてBGV機能（27ページ参照）を使用すると、異なったソースの映像と音声を組み合わせて録音／録画することができます。

■DTSソフトの録音に関するご注意

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音しても、ノイズのみが録音されます。DTSソフトの信号を録音するには、お使いのプレーヤー側でアナログ信号で出力するように設定し、2チャンネルのアナログ信号で録音してください。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

■タイマー再生／録音する

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。
ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、そちらの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ヒント

タイマー再生／録音時には、本機のメモリーに記憶された内容（入力ソース等）が反映されます。

ご注意

- タイマー録音で録音中に音出しをしない場合は、音量を絞ってください。
- 本機の電源を切っても（電源コードをコンセントから抜いた状態）、選択していたソースや音量レベル、セットメニューなどの設定内容は本機に記憶されています。ただし、電源「切」の状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。

リモコンで操作する

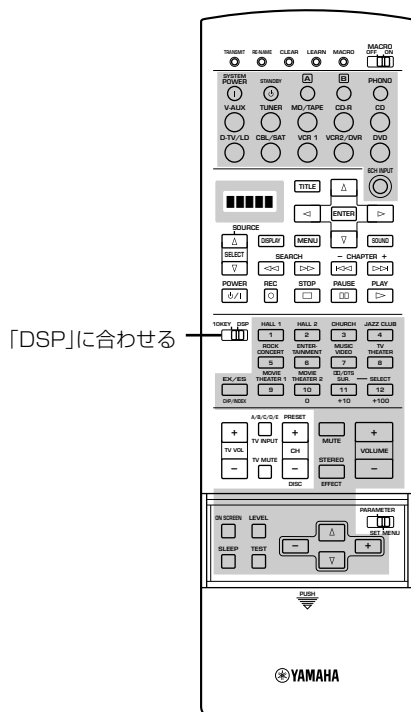
本機のリモコンは、他の機器のリモコン信号を学習するラーニング機能や、メーカーコードの設定機能を持っています。また一連のキー操作を1つのキーでできるようにするマクロ機能を設定することにより、操作性が格段に向上します。

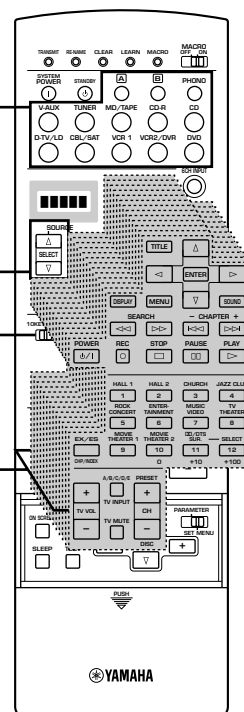
ご注意

- リモコンの操作範囲と乾電池については4ページと8ページを参照してください。
- 各部分の名称とはたらきについては、7、8ページを参照してください。

リモコン操作範囲

■本機を操作する

本機の操作に使用するエリアは、下図の灰色で示したエリアです。どの入力機器が選択されていても、このエリアのキーは本機の操作に使用できます。

■他の機器を操作する

本機に接続された機器の操作に使用するエリアは、下図の灰色で示したエリアです。A、Bキーまたは入力選択キーで選択された機器の操作に使用します。選択された機器により、エリア内の各キーの機能は変わります。

機器操作範囲
13台まで異なる機器を操作できます。また、メーカーコードの設定や、各機器用に他リモコン機能も設定できます。
(46～48ページ参照)

応用操作

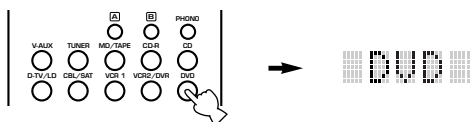
メーカーコードの設定

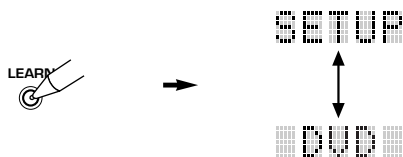
メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。メーカーコードはⒶ、Ⓑキーと各入力選択キーに設定することができます。下表のように、Ⓐ、TUNER、MD/TAPE、CD-R、CD、DVDの入力選択キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのメーカーコードが設定されています。

入力選択キー	ライブラリー	メーカーコード
A	LD	Yamaha
B	SAT	–
PHONO	TV	–
V-AUX	VCR	–
TUNER	TUNER	Yamaha-1
MD/TAPE	MD	Yamaha-1
CD-R	CD-R	Yamaha
CD	CD	Yamaha-1
D-TV/LD	TV	–
CBL/SAT	CABLE	–
VCR 1	VCR	–
VCR 2/DVR	VCR	–
DVD	DVD	Yamaha-1

ご注意

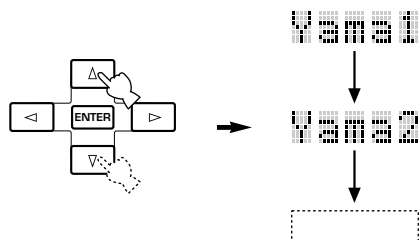
お使いのヤマハ機器によっては初期設定されているヤマハのメーカーコードでは操作できない場合があります。この場合はヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

1 設定を変更したい入力選択キーまたはⒶ、Ⓑキーを押す。

2 LEARNボタンを3秒以上押し続ける。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「SETUP」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンは3秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモードに切り替わってしまいます。
- 操作をしない状態で30秒が経過すると自動的にメーカーコード設定モードは解除されます。その場合は、もう一度LEARNボタンを押します。

3 △/▽ キーを押して、メーカーコードを選択する。

5文字以上のメーカーコードはスクロールして表示されます。

ライブラリー(機器の種類)を変更したい場合、◁/▷キーを押して、使いたい機器の種類を選択する。

本機のリモコンには下記の通り13通りのライブラリーが用意されており、入力選択キーにあらかじめ設定されている機器の種類を変更することができます。

内蔵ライブラリーは全世界対応です。

ライブラリー: L:DVD、L:LD、L:CD、L:CDR、L:MD、L:TAP、L:TUN、L:AMP*、L:TV、L:CAB、L:DBS、L:SAT、L:VCR

本機のリモコンにはあらかじめ本機を操作するためのコードが設定されていますが、必要に応じてアンプのライブラリーを変更することができます。

アンプのライブラリーは以下の4種類です。

YPC: 本機のコード。
Zone2: ヤマハDSPアンプのZONE2機能を操作するコード。本機では使用しません。
DSP: YPC(本機のコード)で操作できない、ヤマハDSPアンプのコード。
No: ヤマハ以外のアンプを本機のリモコンで操作するとき。

ご注意

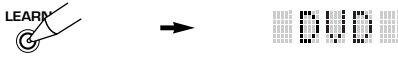
国内BSチューナー用のメーカーコードはL:DBSのPanasonic、Sony、Toshiba-2の3種類です。
L:CAB、L:SAT、L:DBSの各ライブラリーは上記3種類を除き国内で市販されている機器には対応していません。

4 動作確認をする。

ディスプレイにメーカーコードが表示されている時、POWERやPLAYなどの各キーで、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは、手順3で同じメーカーの別のメーカーコードを選択してみてください。

ヒント

メーカーコードを続けてⒶ、Ⓑキーまたは別の入力選択キーにも設定したい場合は、ENTERキーを押してから、手順1、3、4を繰り返してください。

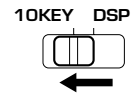
5 **LEARNボタンを押して、メーカーコードの設定を終了する。**
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのメーカーコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能(47、48ページ)を利用するか、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- 1つの入力選択キーに対して、メーカーコードは1つしか設定できません。
- すでにラーニングを設定している場合、ラーニングによる機能が、メーカーコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。

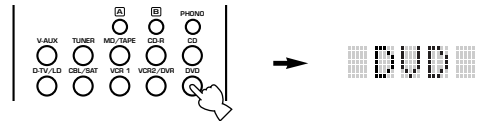
新しいリモコン機能を学習する(ラーニング)

メーカーコードに対応していない機器を使用する場合や、メーカーコードが用意されていない場合は、リモコンに機能を学習(ラーニング)させることができます。ラーニングできるキーは45ページ右図の機器操作範囲で示すキーです。

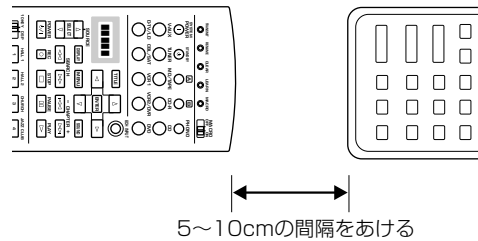
■ラーニング設定

1 **10KEY/DSPスイッチを「10KEY」に合わせる。**

ご注意

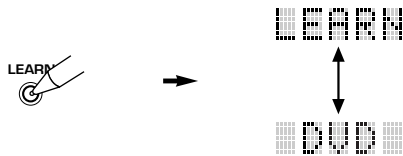
10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせると、45ページ左図の本機操作エリアにもラーニングすることができますが、本機の操作や、音場プログラムの選択もできなくなります。

2 **操作したい機器の入力選択キーまたはⒶ、Ⓑキーを押す。**

3 **本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約5〜10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く。**

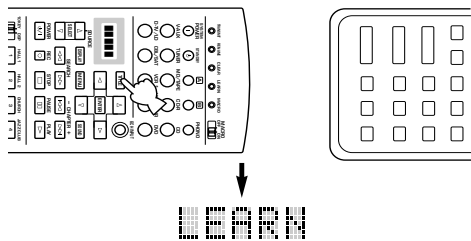
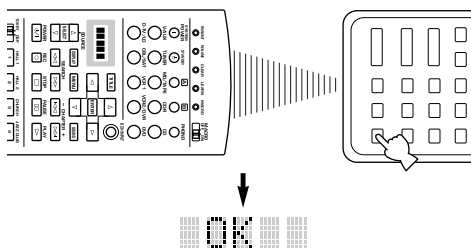
5〜10cmの間隔をあける

応用操作

4 **LEARNボタンを押す。**

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意

- 操作をしない状態で30秒が経過すると自動的にラーニングモードは解除されます。その場合は、もう一度LEARNボタンを押します。
- LEARNボタンを3秒以上押すと、メーカーコードの設定の操作モードに切り替わってしまいます。

5 **新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す。**

リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

6 **リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける。**

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順5から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しくラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

7 **別の機能をラーニングするには、続けて手順5〜6を繰り返す。**

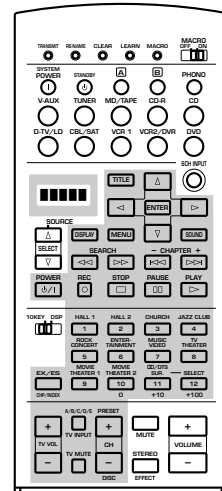
8 **LEARNボタンを押して、ラーニングを終了する。**

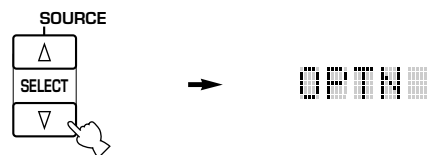
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - 本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - 2台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - リモコンに直射日光が当たっている場合
  - 特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー／スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。

■ラーニングに対応しているキーについて

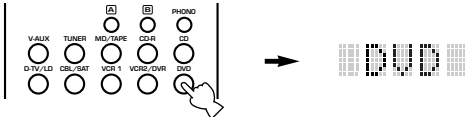
灰色で示したエリアが、Ⓐ、Ⓑキーと入力選択キーごとにラーニングに対応しているキーです。

■OPTN(オプション)モードについて

SOURCE SELECT ∇ キーを押して「OPTN」を選択すると、ラーニング機能を使ってプリセットした機器を操作することができます。

ご注意

OPTNモードには、メーカーコードを設定できません。

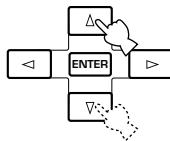
リモコンに表示される入力ソース名を変更する

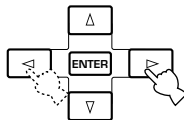
入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される入力ソース名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムにあったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される入力ソース名を変更することができます。

1 入力ソース名を変更したい機器の入力選択キーまたはⒶ、Ⓑキーを押す。

2 RE-NAMEボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。左端にカーソルが点滅します。

3 △/▽ キーを押して、入力する文字を選択する。

選択できる文字は、アルファベット大文字(A～Z)、アルファベット小文字(a～z)、数字(0～9)、スペース、／、－です。

4 ◁/▷ キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する。

必要に応じて手順3と4を繰り返します。文字は最大5文字まで入力できます。

ヒント

引き続き他の機器の入力ソース名を変更する場合は、ENTERキーを押してから、手順1、3、4を繰り返します。

5 RE-NAMEボタンを押して、入力ソース名の変更を終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー／スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。

応用操作

マクロ機能を使う

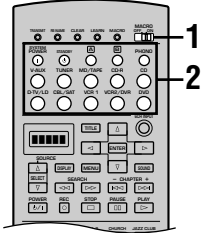
マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を1つのキーでできるようにする機能です。
例えばCDを再生する場合、通常、(1)システムの電源を入れる→(2)入力ソースをCDに切り替える→(3)再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのCDキーを押すだけで、このような一連の操作を済ますことができます。
本リモコンのマクロキー(入力選択キー、[A]キー、[B]キー、SYSTEM POWERキーおよびSTANDBYキー)には、マクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます。

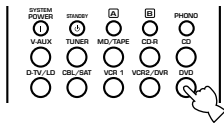
<table>
<tr><th>マクロキー</th><th>1番目</th><th>2番目</th><th>3番目</th></tr>
<tr><td>SYSTEM POWER</td><td>本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*[1]</td><td>テレビの電源が入る(D-TV/LDキーに登録したメーカーコードのテレビ)*[2]</td><td>–</td></tr>
<tr><td>STANDBY</td><td>本機がスタンバイ状態になる</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td>A</td><td rowspan="14">本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*[1]</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td>B</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td>PHONO</td><td>入力ソースの切り替え(PHONO)</td><td>–</td></tr>
<tr><td>V-AUX</td><td>入力ソースの切り替え(V-AUX)</td><td>–</td></tr>
<tr><td>TUNER</td><td>入力ソースの切り替え(TUNER)</td><td>–</td></tr>
<tr><td>MD/TAPE</td><td>入力ソースの切り替え(MD/TAPE)</td><td>MD/TAPEの再生が始まる*[3]</td></tr>
<tr><td>CD-R</td><td>入力ソースの切り替え(CD-R)</td><td>CD-Rの再生が始まる*[3]</td></tr>
<tr><td>CD</td><td>入力ソースの切り替え(CD)</td><td>CDの再生が始まる*[3]</td></tr>
<tr><td>D-TV/LD</td><td>入力ソースの切り替え(D-TV/LD)</td><td>–</td></tr>
<tr><td>CBL/SAT</td><td>入力ソースの切り替え(CBL/SAT)</td><td>–</td></tr>
<tr><td>VCR1</td><td>入力ソースの切り替え(VCR1)</td><td>VCR1の再生が始まる*[3]</td></tr>
<tr><td>VCR2/DVR</td><td>入力ソースの切り替え(VCR2/DVR)</td><td>VCR2/DVRの再生が始まる*[3]</td></tr>
<tr><td>DVD</td><td>入力ソースの切り替え(DVD)</td><td>DVDの再生が始まる*[3]</td></tr>
</table>

*[1] 接続した機器の電源を入れるためには、接続機器の電源プラグを本機のAC OUTLETS SWITCHEDに接続し、電源の入/切を本機に同期させるようにします(機器によっては電源の入/切が本機に同期しないものもあります。接続する機器の取扱説明書を参照してください)。

*[2] キーを押すごとに電源の入/切が切り替わるテレビやビデオデッキの場合は、希望の操作にならないことがあります(例:すでに電源の入っているテレビでは、SYSTEM POWERキーを押すと電源が切れます)。

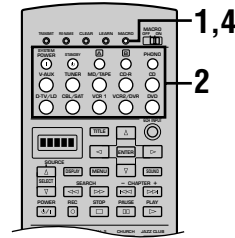
*[3] 再生が始まるのは、ヤマハのリモコンに対応するMDレコーダー、CDレコーダー、CDプレーヤー、DVDプレーヤーです。他の機器をマクロ操作する場合は、登録したい機器のライブラリーのPLAYキーにラーニング機能を割り当てる(47、48ページ)か、メーカーコードやライブラリーを登録する(46ページ)必要があります。

■マクロ機能を使う

1 MACRO ON/OFFスイッチを「ON」に合わせる。

2 希望のマクロキーを押す。

ご注意

- マクロ操作が終わったら、MACRO ON/OFFスイッチを「OFF」に合わせてください。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで(TRANSMITインジケーターが消灯するまで)、他のキーの操作を受け付けません。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの送受信窓を本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。

■マクロを設定する

オリジナルのマクロを設定します。

ご注意

- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- マクロ設定は、本リモコンにラーニングや登録済み(またはヤマハプリセット)のキー信号をマクロキーに設定(転送)させて行います。必要に応じて、あらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。
- 音量の操作など、連続的に操作するキー信号は、本リモコンは短時間のコードとしてラーニングします。したがって、そのようなキーのマクロ設定はおすすめしません。

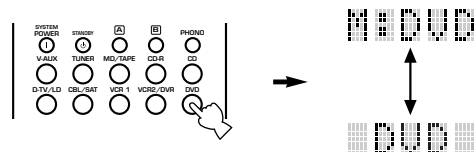
1 **MACROボタンを押す。**
ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

ご注意

操作をしない状態で30秒が経過すると自動的にマクロ設定モードは解除されます。その場合は、もう一度MACROボタンを押します。

2 **設定したいマクロキーを押す。**
リモコンディスプレイにマクロ設定するキーと今選択している入力ソース名が交互に表示されます。

例:DVDキーのマクロを設定する
「M:DVD」と「DVD」が交互に表示されます。

応用操作

ご注意

- マクロキー以外のキーを押すと、「AGAIN」と表示されます。
- 機器を変更したいときは、SOURCE SELECT ∆/∇キーで機器を選択しなおします。入力選択キーで機器を選択すると、本機の入力切り替えが一連のマクロ設定に組み込まれ、機器操作キーも入力機器に応じて切り替わります。SOURCE SELECT ∆/∇ キーで機器を選択すると、入力ソースは変わらずに、機器操作キーは選択した機器に合わせて切り替わります。

3 **マクロの内容を設定する。**

最大10種類のキー信号を設定することができます。10個目のキー信号を設定すると「FULL」と表示され、自動的にマクロ設定モードが解除されます。

例: DVDキーのマクロを設定する

マクロとして設定したい最初のキーを押すと、「MCR 1」と表示されます。しばらくすると「M:DVD」と「DVD」が表示され、次のキーを登録できるようになります。

ご注意

「NG」と表示されたときは、設定が正しく行われていません。手順2から操作をやりなおしてください。

4 **MACROボタンを押して、マクロ設定を終了する。**

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー／スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。

リモコンを初期化する

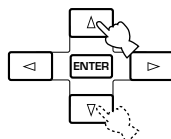
変更したライブラリー、登録したマクロ操作、設定したメーカーコード、ラーニングさせた機能を取り消すことができます。また全ての設定を工場出荷時に戻すこともできます。

1 **CLEARボタンを押す。**

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。

ご注意

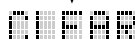
操作をしない状態で30秒が経過すると自動的に消去モードは解除されます。その場合は、もう一度CLEARボタンを押します。

2 **∆/∇ キーを押して、消去モードを選択する。**

消去モードは以下の6種類です。

L:(機器名):	表示されている入力機器にラーニングさせた機能をすべて消去します。入力選択キーで消去する入力機器を選択してください。
L:AMP :	本機操作キー(45ページ左図)にラーニングさせた機能をすべて消去します。
L:ALL :	入力機器に関わらず、ラーニングさせた機能をすべて消去します。
M:ALL :	入力機器に関わらず、登録したマクロをすべて消去します。
RNAME :	変更した入力ソース名をすべて工場出荷時の設定に戻します。
FCTRY :	リモコンのメーカーコードを含む、すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。

3 **CLEARボタンを3秒以上押し続ける。**

リモコンディスプレイに「C:OK」と表示され、手順2で選択した機能や設定が消去されます。

ご注意

「C:NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。手順2から操作しなおしてください。

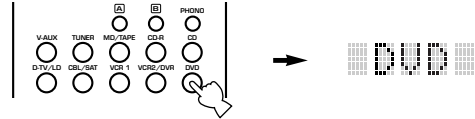
4 **CLEARボタンを押して、消去を終了する。**
リモコンが通常の状態に戻ります。

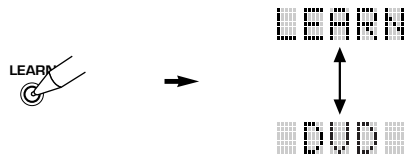
ご注意

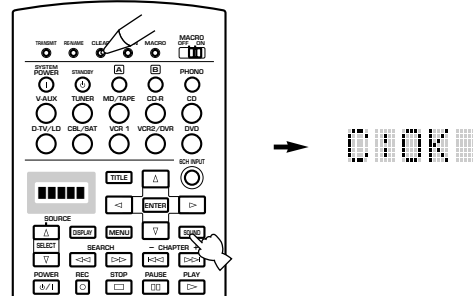
手順で指定されたキー／スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。

ラーニングを消去する

ラーニングさせた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することもできます。

1 **取り消したい機器の入力選択キーまたはⒶ、Ⓑキーを押す。**

2 **LEARNボタンを押す。**
ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意

操作をしない状態で30秒が経過すると自動的に消去は解除されます。その場合は、もう一度LEARNボタンを押します。

3 **CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押し続ける。**
リモコンディスプレイに「C:OK」と表示されます。

ご注意

「C:NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

ヒント

引き続き消去したいキーがある場合は、もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

応用操作

4 LEARNボタンを押して、消去を終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー／スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。

マクロを消去する

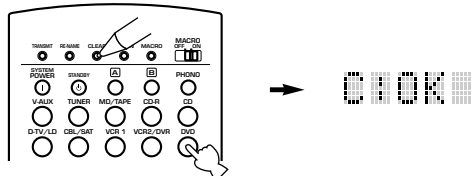
登録したマクロ機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することもできます。

1 MACROボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

ご注意

操作をしない状態で30秒が経過すると自動的に消去は解除されます。その場合は、もう一度MACROボタンを押します。

2 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押し続ける。

リモコンディスプレイに「C:OK」と表示されます。

ご注意

「C:NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

ヒント

引き続き消去したいキーがある場合は、もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

3 MACROボタンを押して、消去を終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

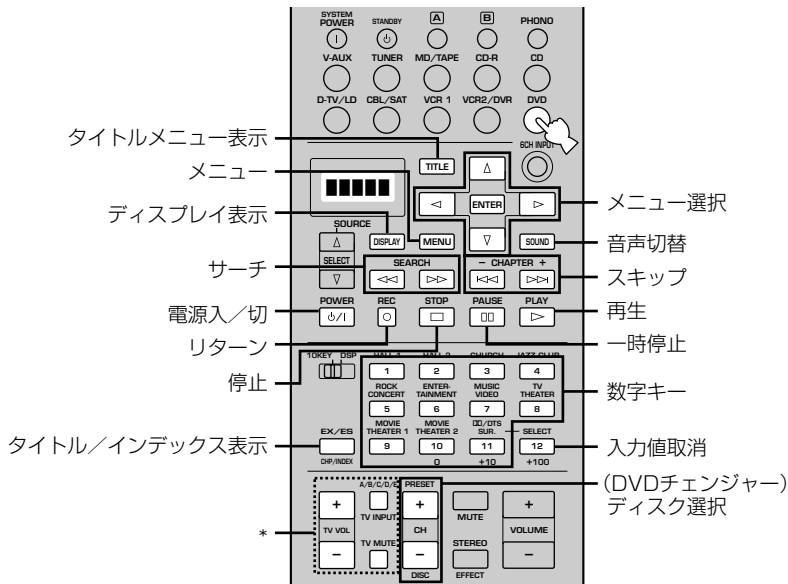
手順で指定されたキー／スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。

各機器を操作する

操作する機器別に、基本操作に使用するキーを説明します。

ご注意

- ご使用の機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、ラーニングをするか、もしくはご使用の機器に付属のリモコンを使用してください。
- ご使用の機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります。
- 工場出荷時、TUNER、CD、CD-R、MD/TAPE、DVDキーにはヤマハメーカーコードが設定されています。他社製の機器を操作する場合は、メーカーコードを変更する必要があります。また上記以外の機器を操作するには、ライブラリー／メーカーコードをあらかじめ設定しておく必要があります(46、47ページ参照)。

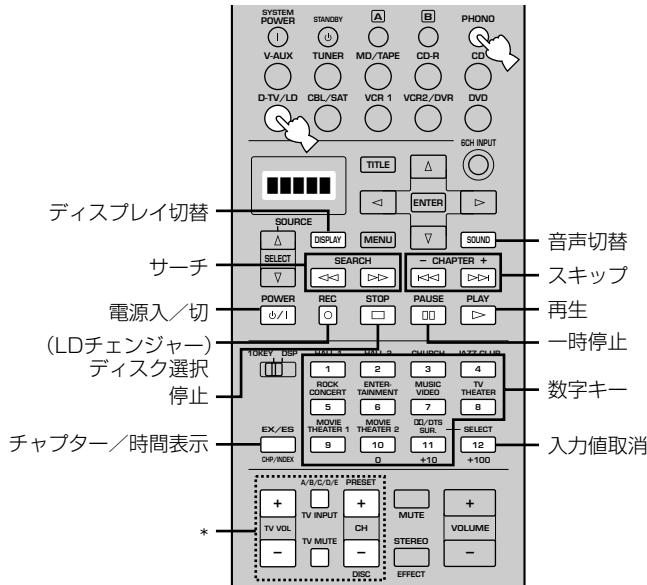
■DVDプレーヤーを操作する

* お使いのテレビのメーカーコードがD-TV/LDキーまたはPHONOキーに設定されていれば、TV INPUT、TV MUTE、TV VOL＋/－キーは有効です。D-TV/LDキーとPHONOキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、D-TV/LDキーが優先されます。

応用操作

■ビデオデッキなどを操作する

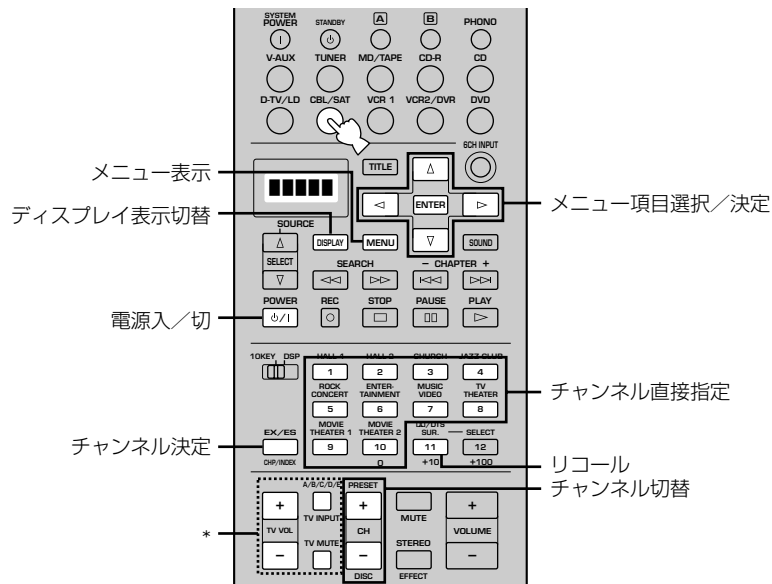
* お使いのテレビのメーカーコードがD-TV/LDキーまたはPHONOキーに設定されていれば、TV INPUT、TV MUTE、TV VOL＋/−、CH＋/−キーは有効です。D-TV/LDキーとPHONOキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、D-TV/LDキーが優先されます。

■テレビを操作する

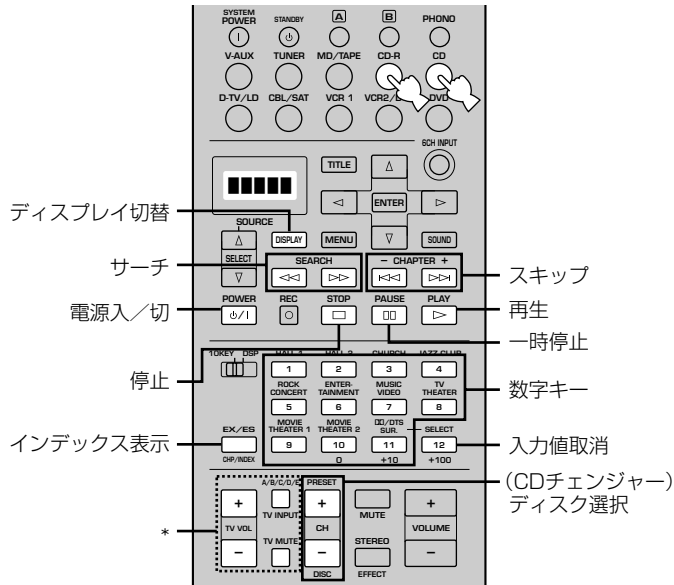
お使いのビデオデッキのメーカーコードがVCR 1キーに設定されていればカッコの中のキーは有効です。

■LDプレーヤーを操作する

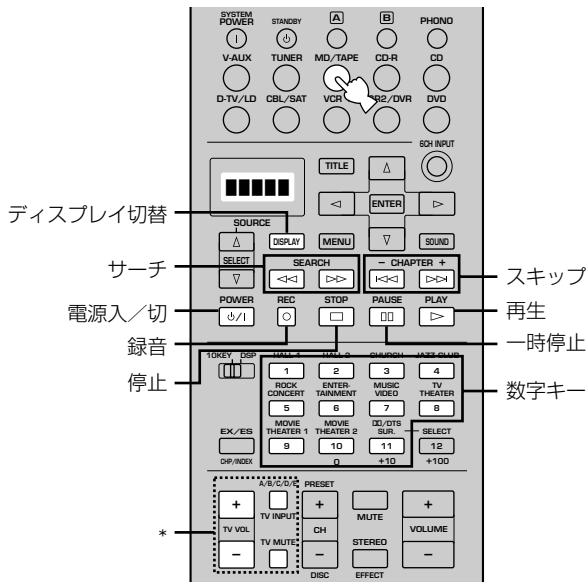
この入力選択キーには、テレビがあらかじめ設定されているので46、47ページの設定手順に従ってお使いのLDプレーヤーのメーカーコードを設定してください。

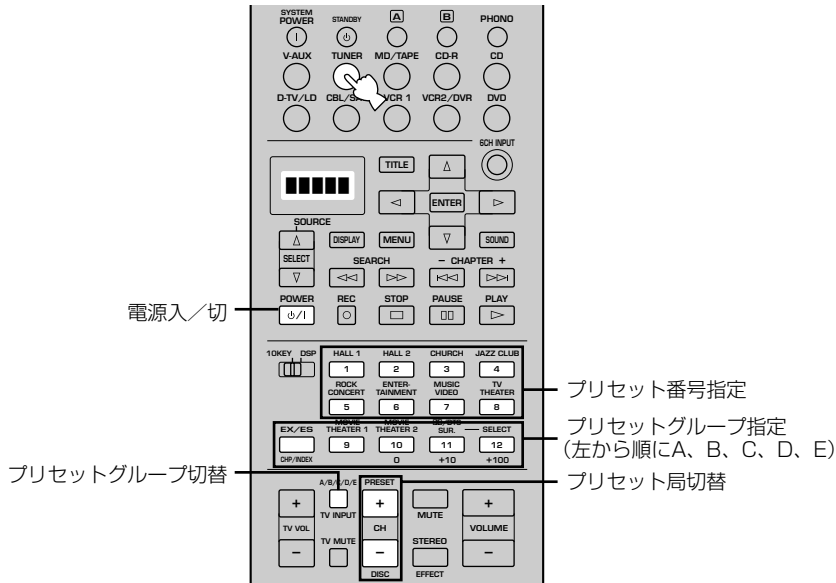
* お使いのテレビのメーカーコードがPHONOキーに設定されていれば、TV INPUT、TV MUTE、TV VOL＋/－、CH＋/－キーは有効です。

■衛星放送のチューナーを操作する

* お使いのテレビのメーカーコードがD-TV/LDキーまたはPHONOキーに設定されていれば、TV INPUT、TV MUTE、TV VOL＋/－キーは有効です。D-TV/LDキーとPHONOキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、D-TV/LDキーが優先されます。

応用操作

■CDプレーヤー/CDレコーダーを操作する

* お使いのテレビのメーカーコードがD-TV/LDキーまたはPHONOキーに設定されていれば、TV INPUT、TV MUTE、TV VOL+/−キーは有効です。D-TV/LDキーとPHONOキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、D-TV/LDキーが優先されます。

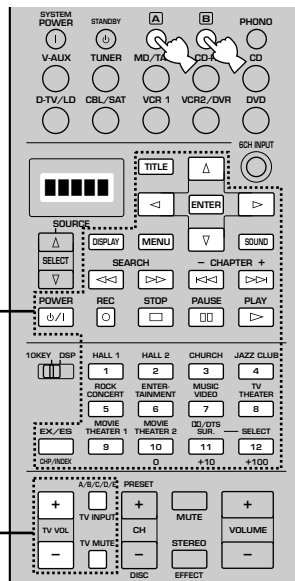
■MDレコーダーを操作する

* お使いのテレビのメーカーコードがD-TV/LDキーまたはPHONOキーに設定されていれば、TV INPUT、TV MUTE、TV VOL+/−キーは有効です。D-TV/LDキーとPHONOキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、D-TV/LDキーが優先されます。

■チューナーを操作する

■ A、B キーに設定した機器を操作する

このキーは入力選択キーではありません。本機の入力選択キーとは関係なく他の機器を操作することができます。下のリモコン中の白いキーが使用可能ですが、お使いの機器によって各キーの機能が異なります。

Aキーにはヤマハ LDプレーヤーがあらかじめ設定されていますが、Bキーには衛星放送チューナーのライブラリーだけがあらかじめ設定されています。他の機器を操作したい場合は、46、47ページのメーカーコードの設定手順に従ってA、Bキーにそのメーカーコードを設定してください。

これらのキーはA、Bキーに設定した機器によってその機能が異なります。

お使いのテレビのメーカーコードがD-TV/LDキーまたはPHONOキーに設定されていれば、TV INPUT、TV MUTE、TV VOL+/−キーは有効です。D-TV/LDキーとPHONOキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、D-TV/LDキーが優先されます。

セットメニューで設定を変更する

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、下記のセットメニューで設定を変更することができます。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。

ヒント

再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。

セットメニュー一覧

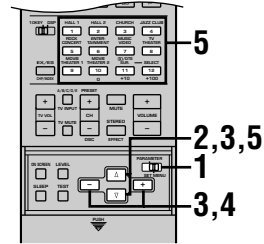
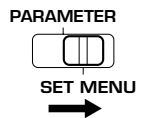
本機には、下記の項目のセットメニューが用意されています。

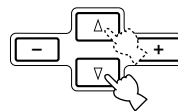
1 SPEAKER SET
- 1A CENTER SP
- 1B MAIN SP
- 1C REAR L/R SP
- 1D REAR CT SP
- 1E LFE/BASS OUT
- 1F MAIN LEVEL
- 1G SP B SET

2 LOW FRQ TEST
3 L/R BALANCE
4 HP TONE CTRL
5 CENTER GEQ
6 INPUT RENAME
7 I/O ASSIGNMENT
- 7A CMPNT-V INPUT
- 7B OPTICAL OUT
- 7C OPTICAL IN
- 7D COAXIAL IN

8 INPUT MODE
9 PARAM. INI
10 LFE LEVEL
11 D-RANGE
12 SP DELAY
13 DISPLAY SET
14 MEMORY GUARD
15 6CH INPUT SET
16 DUAL MONO

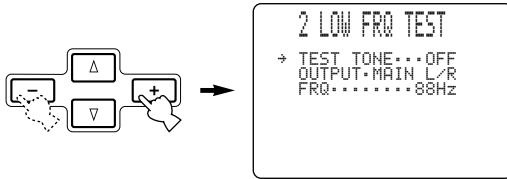
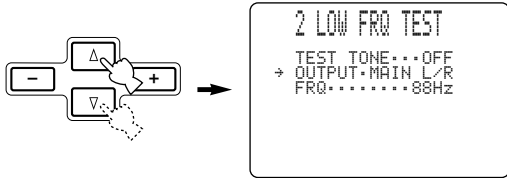
セットメニューの操作手順

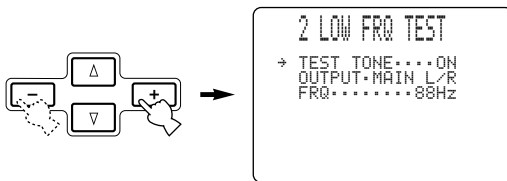
リモコンで操作します。ここではセットメニュー「2 LOW FRQ TEST」の設定変更を例にして説明します。

1 PARAMETER/SET MENUスイッチを「SET MENU」に合わせる。

2 設定したいセットメニューを選択する。

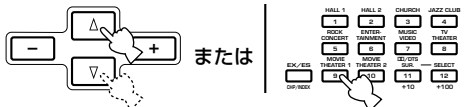
リモコンの ∆/∇ キーを押すと、モニター画面がセットメニュー表示に切り替わります。繰り返し同じキーを押して、1〜16のセットメニューから変更したいセットメニューを選択します。

ご注意

SET MENUの1が選択されているときに ∆ キーを押すと、SET MENUモードが終了してしまいます。（SET MENUの16が選択されているときに ∇ キーを押す場合も同様です。）セットメニューに戻るには、∆/∇ キーを押します。

3 **セットメニューの設定に入る。**

リモコンの+/−キーを押すと、選択したメニューの設定モードに入ります。現在の設定が本体ディスプレイおよびモニター画面に表示されます。

∆/∇ キーを押して、サブメニューを選びます。

4 **設定値を変更する。**

リモコンの+/−キーを繰り返し押して、設定値を変更します。

5 **セットメニューの設定を終了する。**

終了するには、音場プログラム表示になるまでリモコンの ∆/∇ キーを繰り返し押します。またはリモコンの音場プログラムキーを押します。

ご注意

音場プログラムキーを押してもセットメニューを終了することができますが、押したプログラムに設定が変わります。

メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、セットメニューの設定内容はメモリー(記憶)されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、セットメニューが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

1 SPEAKER SET (スピーカーセット)

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。スーパーウーファーをご使用になる場合は必ず設定してください。

ヒント

スピーカーの設定項目では、目安として、ウーファーの口径が16cm以下のスピーカーをお使いの場合はSML、それ以上の口径の場合はLRGをおすすめします。

ご注意

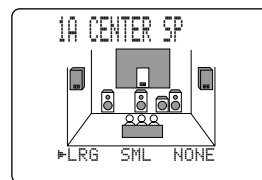
- 6CH INPUT端子から入力した信号には、「1F MAIN LEVEL」以外のスピーカーモードの設定は反映されません。
- 48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が入力された場合は、項目によっては、設定が再生音声に反映されない場合があります。

■ 1A CENTER SP (センタースピーカーモード)

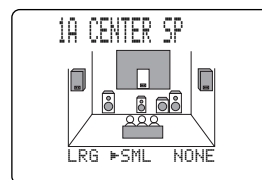
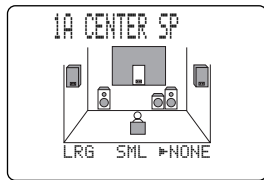
センタースピーカーを追加することによって、画像と音像が一致します。また優れた音場効果の得られるリスニングエリアも広がるため、多くのリスナーでお楽しみいただけるようになります。
モニター画面には、センタースピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

選択項目: LRG(大)、SML(小)、NONE(なし)
初期設定: LRG

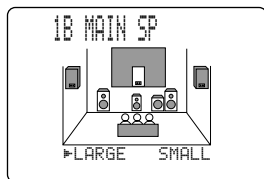
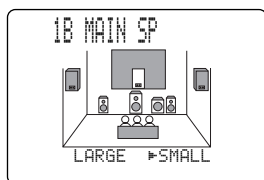
LRG

センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

SML

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

応用操作

NONE
センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインのL、Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

■ 1B MAIN SP （メインスピーカーモード）
モニター画面には、メインスピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

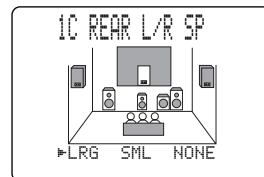
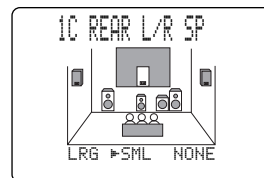
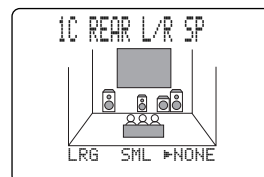
選択項目： LARGE（大）、SMALL（小）
初期設定： LARGE

LARGE
メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインL、Rスピーカーに出力されます。

SMALL
メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。

ご注意

SMALL設定時でも、「1E LFE/BASS OUT」の設定がMAINの場合は、メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインに出力されます。

■ 1C REAR L/R SP （リアL､Rスピーカーモード）
モニター画面には、リアスピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

選択項目： LRG（大）、SML（小）、NONE（なし）
初期設定： LRG

LRG
リアL、Rスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアL、Rスピーカーにリア側スーパーウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合のモードです。リアL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。

SML
リアL、Rスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。

NONE
リアL、Rスピーカーを使用しないときのモードです。

ご注意

「1C REAR L/R SP」をNONEに設定すると「1D REAR CT SP」はスキップされます。

ヒント

「1C REAR L/R SP」をNONEに設定するとバーチャルCINEMA DSPモードになります（31ページ参照）。

■ 1D REAR CT SP (リアセンタースピーカーモード)

リアセンタースピーカーを追加することによって、前方から後方へ、後方から前方へと音の移動がスムーズに行われるため、サラウンド効果を一段と向上させることができます。

ご注意

「1C REAR L/R SP」がNONEに設定されている場合は設定できません。

選択項目: LRG(大)、SML(小)、NONE(なし)
初期設定: LRG

LRG

リアセンタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。リアL、Rチャンネルに含まれるリアセンター信号の全帯域がそのままリアセンタースピーカーに出力されます。

SML

リアセンタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアセンター信号の90Hz以下の低音域は「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

NONE

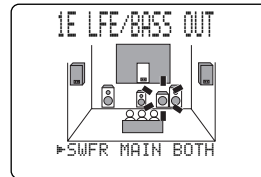
リアセンタースピーカーを使用しないときのモードです。リアセンターチャンネル信号はリアL、Rチャンネルにミックスされます。

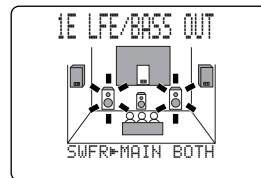
■ 1E LFE/BASS OUT (バスアウトモード)

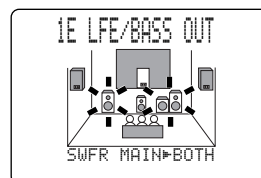
LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。
(LFE信号:ドルビーデジタルやDTS動作時に出力される低域効果音。低音域信号は90Hz以下。)

選択項目: SWFR(スーパーウーファー)、MAIN(メイン)、BOTH(両方)
初期設定: BOTH

SWFR

スーパーウーファーを使用する場合のモードです。
LFEと、1A～1Dの設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、スーパーウーファーに出力されます。

MAIN

スーパーウーファーを使用しない場合のモードです。
LFEと、1A～1Dの設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、メイン L、Rスピーカーに出力されます。

BOTH

スーパーウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーの90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスする場合のモードです。メインL/Rの低音域がメインL/Rスピーカーとスーパーウーファーの両方から出力されます。

ご注意

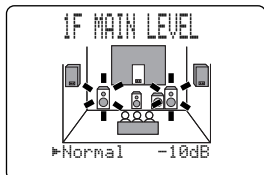
1A～1Dの設定をSMLまたはSMALLにすると他チャンネルの低音域(90Hz以下)およびLFE信号が「1E LFE/BASS OUT」で設定されたスピーカーに出力されます。

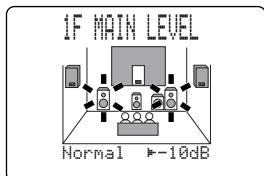
■ 1F MAIN LEVEL （メインレベルモード）

メインスピーカーが極端に高効率であるため、センタースピーカーとリアスピーカーの出力レベルがメインスピーカーに合わない場合には、設定を変えてください。

選択項目： Normal（ノーマル）、－10dB
初期設定： Normal

Normal

通常はこの設定にします。テストトーンでのスピーカーレベル調節の際、エフェクトスピーカーの出力レベルとメインスピーカーのレベルが同じ場合です。

－10 dB

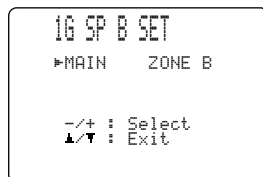
テストトーンでのスピーカーレベル調節の際、エフェクトスピーカーの出力レベルがメインスピーカーより小さい場合は、この設定にします。

■ 1G SP B SET （スピーカーBセット）

リアパネルのSPEAKER B端子に接続されるスピーカーの設置場所を設定します。

選択項目： MAIN、ZONE B
初期設定： MAIN

MAIN

スピーカーBがメインルームに設置されている場合で、SPEAKERS A/Bスイッチの操作によりスピーカーA、BがON/OFFします。

1G SP B SET
▶MAIN ZONE B
−/+ : Select
▲/▼ : Exit

ZONE B

スピーカーBを別の部屋に設置する場合この設定にします。SPEAKERS AスイッチをOFF、BスイッチをONにするとメインルームのすべてのエフェクトスピーカーはミュートされ、スピーカーBのみに音声が出力されます。

ヒント

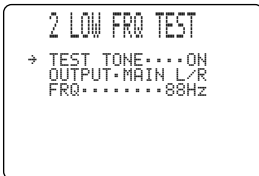
音場プログラムを使用しているときにZONE Bに設定すると、自動的にバーチャル再生になります。また、この場合に本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方にサイレントシアターモードの音声が出力されます。

1G SP B SET
MAIN ▶ZONE B
−/+ : Select
▲/▼ : Exit

2 LOW FRQ TEST（ローフリケンシーテスト）

スーパーウーファーの動作やスーパーウーファーと各スピーカーの音のつながりを、周波数の低いテストトーンで確認します。リスニングポジションに座り、リモコンで操作してください。

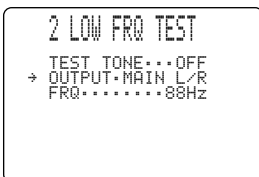
1 +/−キーを押して、TEST TONEをONに設定する。
テストトーンが出力されます。

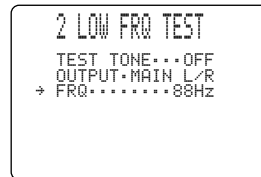
```
2 LOW FRQ TEST
→ TEST TONE····ON
  OUTPUT·MAIN L/R
  FRQ········88Hz
```

ご注意
- ヘッドホンを接続していると、ONに設定できません。
- テスト中にヘッドホンを接続すると、OFFになります。
- ソースの再生中は、テストトーンが優先され、ソースの再生音は出力されません。

2 VOLUME+/−キーを押して音量を調節する。

ご注意
- 音量を上げ過ぎないように注意してください。
- テストトーンが聞こえない場合は、ボリュームを絞ってから本機をスタンバイ状態にし、スピーカーの接続を確認してください。

3 ∇ キーを押してOUTPUTを選択し、+/−キーを押して、比較したいスピーカーを設定する。
SWFR選択時は、90Hz以上のテストトーンはハイカットフィルターでカットされます。テストトーンは選択したスピーカーから出力されなくなります。また、セットメニュー「1 SPEAKER SET」の設定により、90Hzを境にテストトーン出力チャンネルが変わることがあります。

```
2 LOW FRQ TEST
  TEST TONE···OFF
→ OUTPUT·MAIN L/R
  FRQ········88Hz
```

4 ∇ キーを押してFRQ（周波数）を選択し、+/−キーを押して中心周波数を選ぶ。
スーパーウーファーとの音のつながりがスムーズであることを確認するため、中心周波数（35〜250Hz）またはWIDEを設定します。

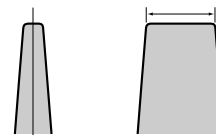
```
2 LOW FRQ TEST
  TEST TONE···OFF
  OUTPUT·MAIN L/R
→ FRQ········88Hz
```

5 スーパーウーファーの音量をスーパーウーファー側で調整し、確認する。

■テストトーンについて

- 本機のテストトーンはトーンジェネレーターにより作り出しています。全帯域フラットな広帯域ノイズから、指定された周波数を中心とした帯域をバンドパスフィルターで切り出しています。
- 中心周波数は35Hz→39Hz→44Hz→「1/6オクターブステップ」で設定できます。
- スーパーウーファーのレベル調節だけでなく、リスニングルームの低域特性チェックにも応用できます。特に超低域ではリスニングポジションやスピーカーの設置場所、スーパーウーファーの位相により状態が大きく変化します。いろいろお試しください。

デジタルトーンジェネレーター（広帯域ノイズ発生）

バンドパスフィルター

応用操作

3 L/R BALANCE（メインスピーカーバランス）

メインスピーカーのL、Rの音量バランスを設定します。

可変範囲：　10ステップ(L－0－R)
初期設定：　0

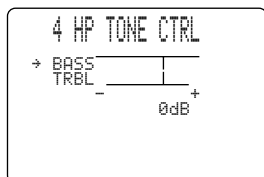
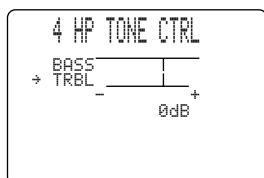
＋/－キーを押してメインL/Rチャンネルのバランスを調節する。
＋キーを押すと左(L)のメインスピーカーの音が小さくなり、－キーを押すと右(R)のメインスピーカーの音が小さくなります。

3 L/R BALANCE
L·····‖·····R
0
－/＋ : Adjust
▲/▼ : Exit

4 HP TONE CTRL（ヘッドホントーンコントロール）

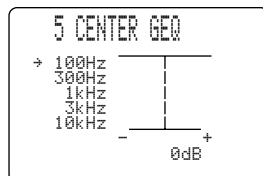
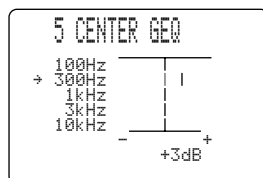
ヘッドホンの低音域および高音域を調節します。

可変範囲：　－6～＋3(dB)
初期設定：　(低音域、高音域ともに)0dB

1 **∆/∇ キーを押して、調節したい音域を選択する。**
BASS(低音域)またはTRBL(高音域)を選択できます。

2 **＋/－キーを押して、レベルを調節する。**
＋キーを押すと選択した音域が増強し、－キーを押すと選択した音域が減衰します。

5 CENTER GEQ（センターグラフィックイコライザー）

センタースピーカーの音色を、メインL、Rスピーカーの音色と合わせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。

可変範囲：　－6～＋6(dB)
初期設定：　(5バンドともに)0dB

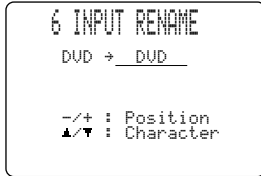
1 **∆/∇ キーを押して、調節したい周波数を選択する。**
100Hz、300Hz、1kHz、3kHz、10kHzの周波数が選択できます。

2 **＋/－キーを押して、レベルを調節する。**
＋キーを押すとレベルが増強し、－キーを押すとレベルが減衰します。

ヒント
テストトーン使用時に、「CENTER GEQ」の調節を行うと、テストトーンを聞きながらセンタースピーカーの音色を調節できます。「CENTER GEQ」の手順を行う前にTESTキーを押します。モニター画面に“TEST DOLBY SUR.”が表示され、テストトーンが各々のスピーカーから順に出力されます。「CENTER GEQ」の操作を始めると、テストトーンの出力はセンタースピーカーに固定されます。周波数を変えながら音色をメインスピーカーの音色に近くなるよう調整します。テストトーンを終了するにはTESTキーを押します(24、25ページ参照)。

6 INPUT RENAME（インプットリネーム）

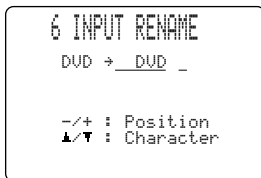
各入力名を変更することができます。変更後は、その名前で入力が表示されます。

1 **入力選択キーを押して､名前を変更する入力ソースを選ぶ。**
1文字目の__（アンダーバー）が点滅します。

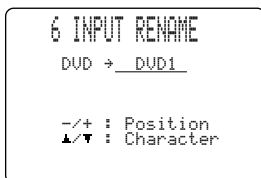
```
6 INPUT RENAME
DVD →__DVD___

-/+ : Position
▲/▼ : Character
```

2 **+/－キーを押して､変更する文字またはスペースに__（アンダーバー）を合わせる。**

```
6 INPUT RENAME
DVD →__DVD _

-/+ : Position
▲/▼ : Character
```

3 **∆/∇キーを押して入力する文字を選ぶ。**
∇ キーを押すと
A～Z→スペース→0～9→スペース→a～z→スペース→＃＊＋, －.／:＜＞？→スペース
の順序で表示されます。∆ キーを押すと逆の順序で表示されます。最大8文字まで入力できます。

```
6 INPUT RENAME
DVD →__DVD1__

-/+ : Position
▲/▼ : Character
```

4 **+/－キーを押して､アンダーバーを移動する。**

5 **入力が終わったら､8文字目にカーソルを移動し、＋キーを押す。**

7 I/O ASSIGNMENT（入出力アサイン）

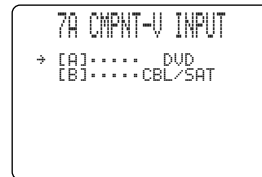
使用する機器と、本機のCOMPONENT VIDEO入力端子やデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合などに、端子の割り当てを変更することで、より多くの機器を使用することができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選択できます。

ご注意

それぞれの項目(7A～7D)の中で、同一の端子名を指定することはできません。

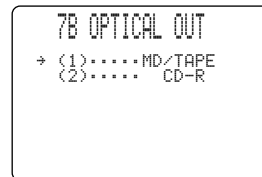
■7A [A][B] COMPONENT VIDEO端子

選択項目: [A] DVD、V-AUX、VCR2/DVR、VCR 1、CBL/SAT、D-TV/LD
[B] CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、V-AUX、VCR2/DVR、VCR 1
初期設定: [A] DVD
[B] CBL/SAT

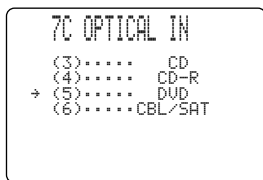
```
7A CMPNT-V INPUT
→ [A]·····   DVD
  [B]·····CBL/SAT
```

■7B (1)(2) OPTICAL OUTPUT端子

選択項目: (1) MD/TAPE、CD-R、CD、PHONO、V-AUX、VCR2/DVR、VCR 1、CBL/SAT、D-TV/LD、DVD
(2) CD-R、CD、PHONO、V-AUX、VCR2/DVR、VCR 1、CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE
初期設定: (1) MD/TAPE
(2) CD-R

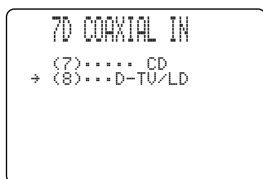
```
7B OPTICAL OUT
→ (1)·····MD/TAPE
  (2)·····   CD-R
```

応用操作

■7C (3)～(6) OPTICAL INPUT端子

選択項目: (3) CD、PHONO、VCR2/DVR、VCR 1、CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R
(4) CD-R、CD、PHONO、VCR2/DVR、VCR 1、CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE
(5) DVD、MD/TAPE、CD-R、CD、PHONO、VCR2/DVR、VCR 1、CBL/SAT、D-TV/LD
(6) CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R、CD、PHONO、VCR2/DVR、VCR 1
初期設定: (3) CD
(4) CD-R
(5) DVD
(6) CBL/SAT

```
7C OPTICAL IN
  (3)·····   CD
  (4)·····  CD-R
→ (5)·····  DVD
  (6)·····CBL/SAT
```

■7D (7)(8) COAXIAL INPUT端子

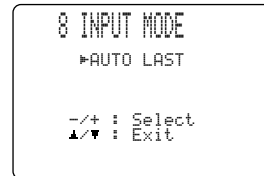
選択項目: (7) CD、PHONO、V-AUX、VCR2/DVR、VCR 1、CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R
(8) D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R、CD、PHONO、V-AUX、VCR2/DVR、VCR 1、CBL/SAT
初期設定: (7) CD
(8) D-TV/LD

```
7D COAXIAL IN
  (7)····· CD
→ (8)···D-TV/LD
```

8 INPUT MODE (初期インプットモード)

再生機器を2種類以上の入力端子に接続している場合に電源を入れたときの入力モードを設定します。

選択項目: AUTO、LAST
初期設定: AUTO

```
8 INPUT MODE
  ▶AUTO LAST

 -/+ : Select
 ▲/▼ : Exit
```

AUTO

最後に操作したときの入力モード設定に関わらず、本機の電源を入れると入力モードが自動的にAUTOに設定されます。

LAST

最後に操作したときの入力モード設定が、そのまま適用されます。

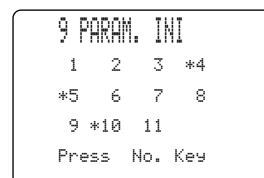
ご注意

LASTを選択しても、EX/ESキーの設定は記憶されません。

9 PARAM. INI (パラメーターイニシャライズ)

音場プログラムのパラメーターを、プログラムグループごとに初期設定値に戻します。

設定値が変更されている音場プログラムは、そのプログラムナンバーのまえにアスタリスク(*)がついています。リモコンの音場プログラムキー(1～11)を押すと、その音場プログラムが初期設定値に戻ります。

```
9 PARAM. INI
  1   2   3  *4
 *5   6   7   8
  9 *10  11
 Press  No. Key
```

ご注意

- 初期設定値に戻したプログラムを、初期化前の状態に戻すことはできません。
- 音場プログラムにサブプログラムがある場合でも、サブプログラムごとに初期設定値に戻すことはできません。
- 「14 MEMORY GUARD」をONに設定している場合は、初期化できません。

10 LFE LEVEL(LFEレベル)

ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。LFE信号とは、意図されたシーンでのみ出力される重低音による効果音です。

可変範囲: −20〜0(dB)
初期設定: 0dB(スピーカー、ヘッドホンとも)

1 **△/▽ キーを押して、SPEAKERまたはHEADPHONEを選択する。**

```
10 LFE LEVEL
→ SPEAKER······0dB
  HEADPHONE····0dB
```

2 **+/−キーを押して、レベルを調節する。**
+キーを押すとレベルが増強し、−キーを押すとレベルが減衰します。

```
10 LFE LEVEL
→ SPEAKER····-11dB
  HEADPHONE····0dB
```

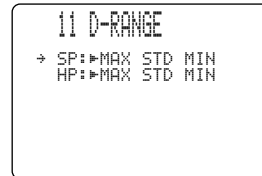
ご注意

使用するスーパーウーファーやヘッドホンの能力に応じて、レベル調節を行ってください。

11 D-RANGE (ダイナミックレンジ)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音量から最小音量までの幅)を、3段階から選択します。

選択項目: MAX、STD、MIN
初期設定: MAX(スピーカー、ヘッドホンとも)

```
11 D-RANGE
→ SP:▶MAX STD MIN
  HP:▶MAX STD MIN
```

MAX
信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

STD
ソフト制作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN
小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

ご注意

ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このような場合は、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

12 SP DELAY （スピーカーディレイ）

センタースピーカーとリアセンタースピーカーのディレイタイム（遅延時間）を設定します。ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時など、センタースピーカーから音声を出力する場合に有効になります。

通常センタースピーカーはメインL/Rスピーカーと同一線上に設置しますが、本来ならば同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想的です。ディレイを設定することにより、仮想的にセンタースピーカーまたはリアセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと前後3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、音場の奥行き感やセリフの量感を増す効果があります。

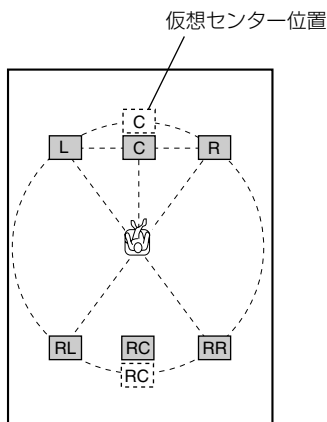
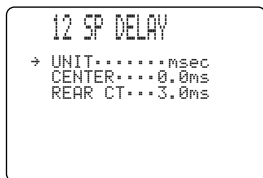
1 **∆/∇ キーを押して、UNITを選択する。**

2 **＋/－キーを押して、ディレイ設定する単位を選択する。**
msec、meters、feetから選択します。

ご注意

- 選択する単位により、設定内容（初期設定、設定項目など）が変わります。
- 単位meters、feet選択時は、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を入力します。

3 **∆/∇ キーを押して、ディレイ設定をするスピーカーを選択する。**

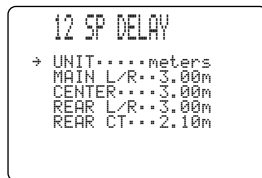
4 **＋/－キーを押して、ディレイを設定する。**
＋キーを押すと数値が大きくなり、－キーを押すと数値が小さくなります。

■msecで設定する

可変範囲：　0～5.0ms（センター）、
　　　　　　0～30.0ms（リアセンター）
初期設定：　0ms（センター）、3.0ms（リアセンター）

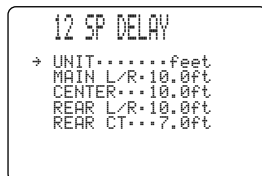
```
12 SP DELAY
→ UNIT·······msec
  CENTER····0.0ms
  REAR CT···3.0ms
```

■metersで設定する

可変範囲：　0.15～30.00m（メインL/R、センター、
　　　　　　リアL/R、リアセンター）
初期設定：　3.00m（メインL/R、センター、リアL/R）、
　　　　　　2.10m（リアセンター）

```
12 SP DELAY
→ UNIT·····meters
  MAIN L/R··3.00m
  CENTER····3.00m
  REAR L/R··3.00m
  REAR CT···2.10m
```

■feetで設定する

可変範囲：　0.5～100ft（メインL/R、センター、
　　　　　　リアL/R、リアセンター）
初期設定：　10.0ft（メインL/R、センター、リアL/R）、
　　　　　　7.0ft（リアセンター）

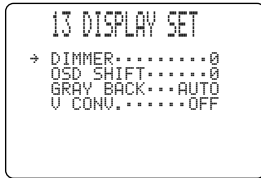
```
12 SP DELAY
→ UNIT·······feet
  MAIN L/R·10.0ft
  CENTER···10.0ft
  REAR L/R·10.0ft
  REAR CT···7.0ft
```

ご注意

metersやfeet選択時には、メインL/Rとセンター、またはリアL/Rとリアセンターに等距離を入力すると、ディレイは設定されません。

13 DISPLAY SET（ディスプレイセット）

オンスクリーン表示の背景や表示位置、本体ディスプレイの明るさなどを設定します。

```
13 DISPLAY SET

→ DIMMER.........0
  OSD SHIFT......0
  GRAY BACK...AUTO
  V CONV.......OFF
```

■DIMMER（ディマー）

本体ディスプレイの明るさを調節します。

可変範囲： −4〜0
初期設定： 0

−キーを押すと本体ディスプレイが暗くなります。

■OSD SHIFT（OSDシフト）

オンスクリーン表示位置を上下に調節します。

可変範囲： −5（上方）〜＋5（下方）
初期設定： 0

＋キーを押すと表示位置を下方向に移動します。−キーを押すと表示位置を上方向に移動します。

■GRAY BACK（グレーバック）

オンスクリーン表示の設定をします。

選択項目： AUTO、OFF
初期設定： AUTO

AUTO

ビデオ信号が入力されていない場合に、グレーの背景を表示します。

OFF

ビデオ信号が入力されていない場合に、何も表示しません。

ご注意

OFFに設定すると、ビデオ信号が入力されていない場合は、オンスクリーン表示も表示されません。

■V CONV.（ビデオコンバージョン）

Sビデオ入力信号がない場合にコンポジットビデオ入力信号をSビデオ信号に変換する機能を設定します。

選択項目： ON、OFF
初期設定： OFF

OFF

コンポジットビデオ入力信号をSビデオ信号に変換しません。

ON

コンポジットビデオ入力信号をSビデオ信号に変換して、S VIDEO端子にも出力します。

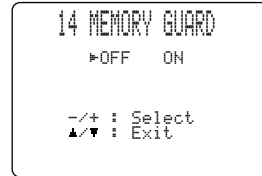
14 MEMORY GUARD（メモリーガード）

変更した設定値を保護します。ONに設定すれば、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。

選択項目： ON、OFF
初期設定： OFF

```
14 MEMORY GUARD

   ▶OFF    ON


  −/+ : Select
  ▲/▼ : Exit
```

ONに設定したときに保護される設定は、以下のとおりです。

- 音場プログラムのパラメーター設定値
- 「14 MEMORY GUARD」以外のセットメニュー設定値
- センター、リア、リアセンター、スーパーウーファーの音量
- オンスクリーン表示の設定

ご注意

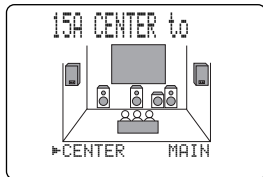
- 設定をONにすると、他のセットメニューは呼び出せません。
- 設定をONにすると、テストモードに入れません。

15 6CH INPUT SET（6チャンネルインプットセット）

6CH INPUT端子に接続されたソースの入力信号のうち、センター成分とスーパーウーファー成分の振り分け先を設定します。

■ 15A CENTER to（センター成分の振り分け）

CENTER端子に入力された信号の振り分け先を設定します。

選択項目：CENTER、MAIN
初期設定：CENTER

CENTER

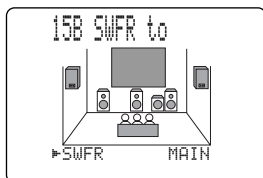
入力された信号は、センタースピーカーに出力されます。

MAIN

入力された信号は、メインL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられて出力されます。

■ 15B SWFR to（スーパーウーファー成分の振り分け）

SUBWOOFER端子に入力された信号の振り分け先を設定します。

選択項目：SWFR、MAIN
初期設定：SWFR

SWFR

入力された信号はスーパーウーファーに出力されます。

MAIN

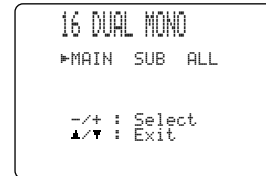
入力された信号は、メインL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられて出力されます。

16 DUAL MONO（デュアルモノ）

BSデジタル放送などで使われる、モノラル二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定します。

選択項目：MAIN、SUB、ALL
初期設定：MAIN

16 DUAL MONO
▶MAIN　SUB　ALL

-/+ : Select
▲/▼ : Exit

MAIN

主音声のみをメインL/Rスピーカーから出力します。

SUB

副音声のみをメインL/Rスピーカーから出力します。

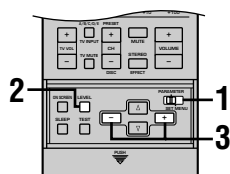
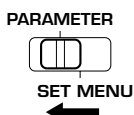
ALL

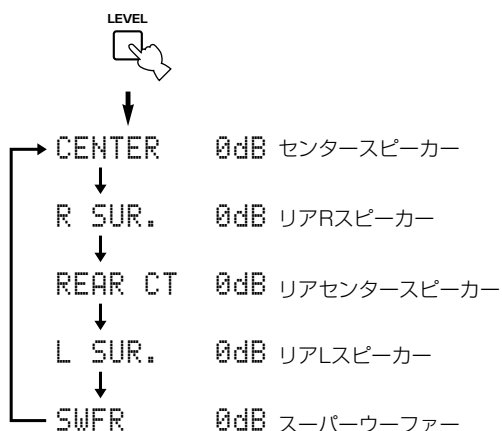
主音声と副音声をメインL/Rスピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のL/Rチャンネルへの音声の振り分けは、BSデジタルチューナー側の設定によって異なります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- モノラルでない二重音声の出力は、本機で設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- この設定は、AAC、ドルビーデジタル、DTS信号の二重音声（デュアルモノ）信号およびAACの多重音声（マルチモノ）信号受信時のみ有効になります。ただし、AAC信号音声の第3、第4チャンネルを選択することはできません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- 地上波放送などの、アナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で音声の主／副を選択してください。

エフェクトスピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら、エフェクトスピーカー(センター、リアR、リアL、スーパーウーファー)の音量を調節できます。調節はリモコンで行います。

1 PARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる。

(ソース再生中)

2 **LEVELキーを押して、調節するスピーカーを選択する。**
LEVELキーを押すごとに、以下の順序で調節するスピーカーが切り替わります。

ヒント

LEVELキーでレベル表示にすると、∆/∇ キーでもスピーカーを選べます。

3 **+/−キーを押して、スピーカーの音量を調節する。**

- センターおよびリアL、Rスピーカーの調節範囲は、+10〜−10dBです。
- スーパーウーファーの調節範囲は、−20〜0dBです。

ご注意

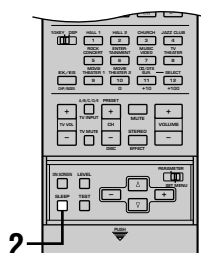
- LEVELキーでスピーカーレベルを調節すると、「TEST DOLBY SUR.」で調節したスピーカーレベルも変更されます。
- PARAMETER/SET MENUスイッチを「SET MENU」に合わせると、レベルの調節はできませんが、LEVELキーを押すごとに各スピーカーのレベルが表示されるのでスピーカーレベルの確認ができます。
- セットメニュー「1A CENTER SP」、「1C REAR L/R SP」、「1D REAR CT SP」がNONEに、「1E LFE/BASS OUT」がMAINに設定されている場合は、そのスピーカーのレベルは調節できません。
- 6CH INPUT端子に接続しているソースの再生中は、独立してレベルの調節が可能です。この場合、調節できるスピーカーはセンタースピーカー、リアRスピーカー、リアLスピーカー、スーパーウーファーの4つとなります。

スリープタイマー

設定した時間が経過すると、本機が自動的にスタンバイ状態になるように設定できます(スリープタイマー)。聴きながら、もしくは録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面の電源供給コンセントに接続した機器(ソース)の電源も「切」になります。
スリープタイマーの設定はリモコンで行います。

ヒント

タイマー再生をしたいときは市販のタイマーをお使いください。詳しくはタイマーの取扱説明書をご覧ください。

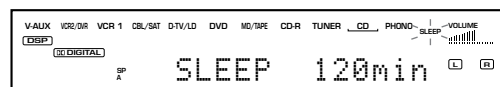
スリープタイマーを設定する

1 ソースを選んで、再生する。

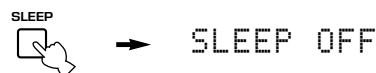
2 スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ。

SLEEPキーを押すごとに、ディスプレイ表示が下記のように切り替わります。その間SLEEPインジケーターが点滅しています。(min=分)

→SLEEP 120 min→SLEEP 90 min→SLEEP 60 min→SLEEP 30 min→SLEEP OFF→

設定時間を数秒表示したあと、音場プログラム表示に戻ります。スリープタイマー動作中は、SLEEPインジケーターが点灯します。

SLEEP 120min

スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを押します。「SLEEP OFF」を数秒表示したあと、音場プログラム表示に戻り、SLEEPインジケーターも消灯します。

ヒント

リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除されます。

音場プログラムパラメーターを変更する

音場とは

生の楽器の豊かで優美な音色を実際に作り出すのは、室内の壁から発せられる数多くの反射音です。こうした反射音は音を“生き生き”とさせるだけでなく、演奏者のいるステージや、観客席を含めた演奏会場そのものの規模や形状をも伝えてくれます。

■ 音場の構成要素

音場を構成する要素として、楽器がかなでる音が直接伝わってくる直接音と、周囲の物体に反射してくる2種類の反射音があります。

初期反射音

1つの表面のみに(例えば、天井や壁に)反射してから、極めて急速(直接音が発生してから50msから100ms後)にリスナーの耳に到達する反射音です。初期反射音によって直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

2つ以上の表面(例えば、壁、天井、部屋の後部)で何度も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになって連続した音響の“余韻”が残ります。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができるのです。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現して、音場を作り出します。

リスニングルームで適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができるわけです。リスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができます。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

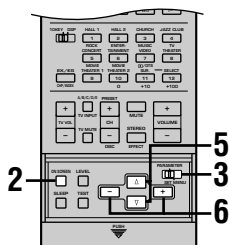
音場プログラムパラメーター

音場プログラムは、演奏会場や劇場の規模、残響時間、リスナーから演奏者までの距離などを判断するためのパラメーターで構成されています。各プログラムは、プログラム固有の音場を作り出すためにヤマハによって正確に計算された数値を用いてこれらのパラメーターが設定されます。パラメーターの数値を変更せずに音場プログラムを使用することをお勧めしますが、本機を使用すれば独自の音場を作り出すこともできます。まずは内蔵プログラムの1つを手始めに、これらのパラメーターを調整してみるとよいでしょう。

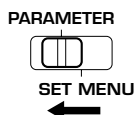
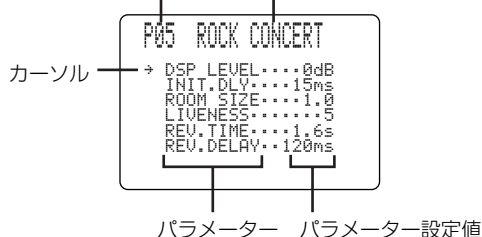
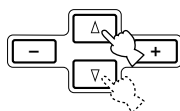
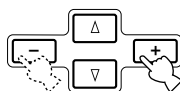
各音場プログラムに設定されているパラメーターセットを元にして、お望みの効果を正確に作り出すために音響環境の特性を変更することができます。これらのパラメーターは、実際のコンサートホールをはじめとした演奏会場における音場を再現する数多くの自然音響ファクターに対応しています。例えば、リスニングルームの大きさは初期反射音間の時間の長さに影響します。音場プログラムの多くに設定されている“ROOM SIZE(ルームサイズ)”パラメーターはこれらの反射音間のタイミングを変更し、結果的にリスニングする“ルーム”の形状を変えています。ルームサイズのほかに、リスニングルームの形状や表面の特性も最終的な音に重大な影響を与えます。例えば、音を吸収する表面は反射音や残響音をより速く減衰させます。また、反射性の高い表面は反射音がより長時間持続されます。このようにデジタル音場パラメーターに関するこれらのファクターを調整できますから、リスナーの気分や好みの音楽にぴったり合った自分だけのリスニング環境を再現するために“デザインしなおす”ことができます。

77～80ページの「パラメーターガイド」を参照してください。

パラメーターを変更する

各音場プログラムのパラメーターは、初期設定値のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響に合わせて音場プログラムをアレンジすることができます。

1 本機に接続したモニターの電源を入れる。

2 ON SCREENキーを押して、オンスクリーン表示を全表示にする。

3 PARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる。

4 音場プログラムを選択する。
「音場プログラムを選ぶ」(29ページ)を参照してください。

5 Δ/∇ キーを押して、変更したい項目を選択する。

6 +/−キーを押して、設定値を変更する。
初期設定値以外に変更すると、パラメーター名の前にアスタリスク(＊)が表示されます。

7 他の音場プログラムの設定値を変更したいときは、手順4〜6を繰り返す。

ご注意

- 音場プログラムによっては、パラメーターは数ページに分けて表示されます。Δ/∇ キーを押して、ページをスクロールしてください。
- セットメニュー「14 MEMORY GUARD」(71ページ)がONに設定されている場合は、設定値を変更できません。設定値を変更する前に、OFFに設定してください。

パラメーターを初期設定に戻す

■パラメーターの一部を初期設定に戻す

初期設定値に戻したいパラメーターを選択してから、初期設定値でいったん表示が止まるまで+/−キーを押しつづけます。
初期設定値に戻ると、パラメーター名の前のアスタリスクの表示が消えます。

■すべてのパラメーターを初期設定値に戻す

セットメニュー「9 PARAM. INI」(68ページ)で、音場プログラムごとにパラメーターをすべて初期設定値に戻せます。

パラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

■ DSP LEVEL（DSPレベル）

可変範囲：−6〜+3dB

機能：　DSPエフェクトレベル（効果音）の微調節。

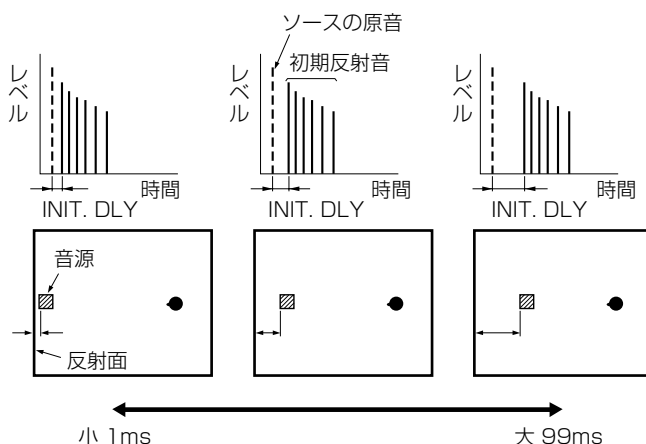
解説：　DSPエフェクト音全体のレベルを微調節するパラメーターです。

■ INIT. DLY（イニシャル・ディレイ）（P. INIT. DLY：プレゼンス音場用）

可変範囲：1〜99ms

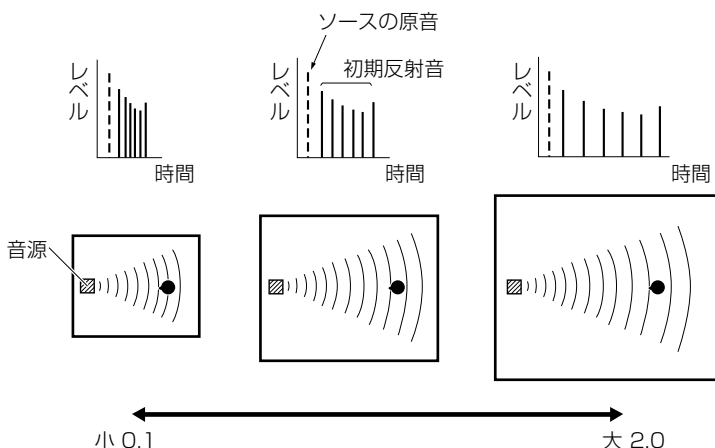
機能：　音源と壁面との距離感を調節

解説：　直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）をコントロールするパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。INIT. DLYを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等がコントロールできます。

その他の情報

■ROOM SIZE(ルーム・サイズ)(P. ROOM SIZE:プレゼンス音場用)

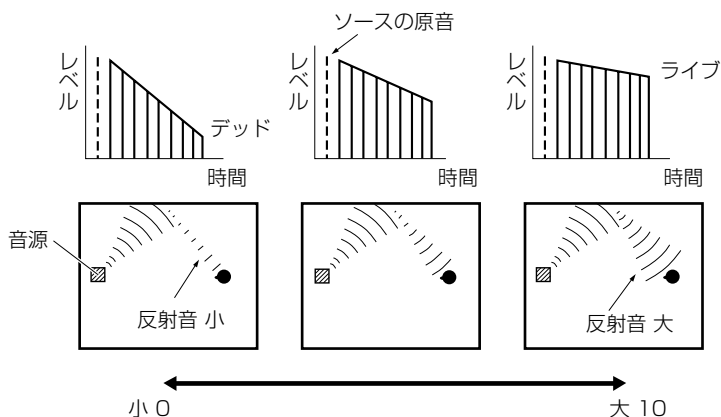
可変範囲:0.1〜2.0

機能:　拡がり感の調節

解説:　空間の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど広い空間(部屋)になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

■LIVENESS(ライブネス)

可変範囲:0〜10

機能:　響き具合の調節

解説:　初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

■S. DELAY(サラウンド・ディレイ)

可変範囲:0〜49ms(信号により可変範囲が変わります)

機能:　サラウンド信号(マルチチャンネル)やサラウンド音場(2chステレオ)の遅延時間を調節

■S. INIT. DLY(サラウンド・イニシャル・ディレイ)

可変範囲:1〜49ms

機能:　サラウンド音場の遅延時間を調節(ドルビーデジタル、DTSおよびAAC入力時のみ有効)

■S. ROOM SIZE(サラウンド・ルーム・サイズ)

可変範囲:0.1〜2.0

機能: サラウンド音場の拡がり感を調節

■S. LIVENESS(サラウンド・ライブネス)

可変範囲:0〜10

機能: サラウンド音場の響き具合を調節

■RC INIT. DLY(リア・センター・イニシャル・ディレイ)

可変範囲:1〜49ms

機能: リアセンター音場の遅延時間を調節(EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効)

■RC ROOM SIZE(リア・センター・ルーム・サイズ)

可変範囲:0.1〜2.0

機能: リアセンター音場の拡がり感を調節(EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効)

■RC LIVENESS(リア・センター・ライブネス)

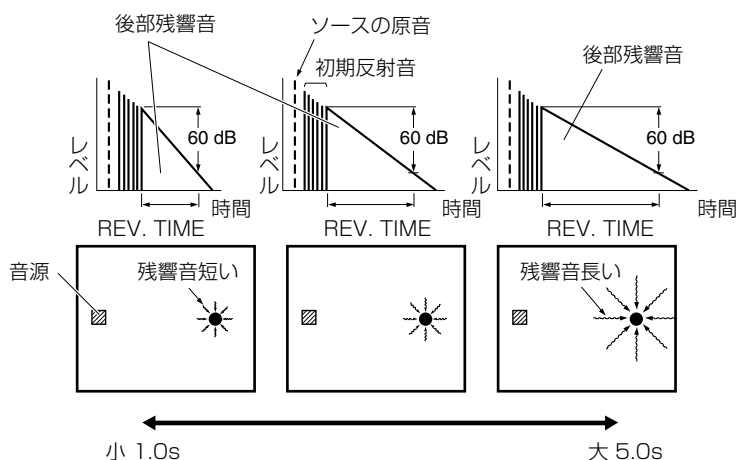
可変範囲:0〜10

機能: リアセンター音場の響き具合を調節(EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効)

■REV. TIME(リバーブレーション・タイム)

可変範囲:1.0〜5.0s

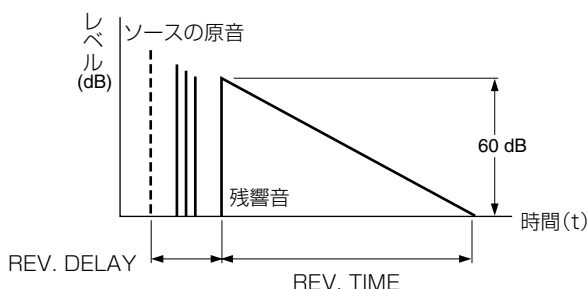
機能: 余韻の長さを調節

解説: 後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIMEを調節することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。

■REV. DELAY(リバーブレーション・ディレイ)

可変範囲:0〜250ms

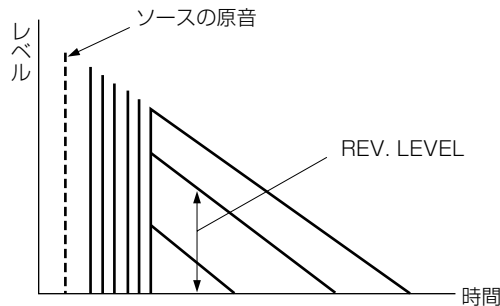
機能: 残響音の遅延時間を調節

解説: 残響音が発生し始めるまでの時間です。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV. TIMEでも、REV. DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

その他の情報

■REV. LEVEL(リバーブレーション・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能:　余韻の強さを調節

解説:　後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

6ch Stereo用

■CT LEVEL(センター・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能:　6ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルの調節

■RL LEVEL(リア・レフト・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能:　6ch Stereo音場でのリアLチャンネルの出力レベルの調節

■RR LEVEL(リア・ライト・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能:　6ch Stereo音場でのリアRチャンネルの出力レベルの調節

■RC LEVEL(リア・センター・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能:　6ch Stereo音場でのリアセンターチャンネルの出力レベルの調節

PRO LOGIC II Music用

■PANORAMA(パノラマ)

可変範囲:ON/OFF

機能:　DOLBY PRO LOGIC IIのフロント音場の拡がり感を調節(DOLBY PRO LOGIC IIデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)

■DIMENSION(ディメンション)

可変範囲:−3〜STD〜+3

機能:　DOLBY PRO LOGIC IIのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節(DOLBY PRO LOGIC IIデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)

■CT WIDTH(センター・ウィドゥス)

可変範囲:0〜7

機能:　DOLBY PRO LOGIC IIのセンター音声の左右への拡がりを調節(DOLBY PRO LOGIC IIデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)

DTS Neo:6 Music用

■C. IMAGE(センター・イメージ)

可変範囲:0〜0.5

機能:　DTS Neo:6のフロント音場の拡がり感を調節(DTS Neo:6デコーダーのMusicモード再生時のみ有効)

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

■全般

症状	原因	対策
電源スイッチを押しても電源が入らない、または電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。
本体ディスプレイに「CHECK SP WIRES!」と表示された	スピーカーケーブルがショートしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が「OFF」になっている。	フル表示またはショート表示に設定してください（22ページ参照）。
	セットメニュー「13 DISPLAY SET」の「GRAY BACK」が「OFF」に設定されている。	映像信号が入力されていないときは、表示されません。常に表示させる場合は、「AUTO」に設定してください（71ページ参照）。
	お使いのモニターがCOMPONENT VIDEOまたはD4 VIDEOのMONITOR OUT端子に接続されている。	S VIDEOまたはVIDEO端子に接続し直してください（14～16ページ参照）。
音声や画像が出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUTセレクターや6CH（INPUT）キーで正しく選択をしてください（26ページ参照）。
	スピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください（12、13ページ参照）。
	SPEAKERS A/Bスイッチが正しく設定されていない。	使用するスピーカーに対応するSPEAKERSスイッチをONにしてください（26ページ参照）。
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください（27ページ参照）。
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。
	映像の出力側と入力側を異なった種類のビデオ端子で接続している。	入力、出力側ともに、VIDEOやS VIDEO、COMPONENTなど同じ種類の端子を使用して接続してください。

症状	原因	対策
音声が突然出なくなる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。
	消音された。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください(27ページ参照)。
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。
	セットメニューの「3 L/R BALANCE」が正しく設定されていない。	バランスを正しく設定してください。
エフェクトスピーカー（センター、リアL/R、リアセンター）から音声が出ない	ステレオ再生をしている（ディスプレイに「STEREO」と表示されている)。	STEREO/EFFECTキーを押して、音場効果を入れてください(32ページ参照)。
	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号でエフェクトチャンネル信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。
	サンプリング周波数96kHzを超えるデジタル信号が本機に入力されている。	サンプリング周波数96kHzを超えるデジタル信号入力時は、エフェクトスピーカーから音声は出ません。
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーのレベルが絞られている。	センタースピーカーのレベルを調節してください(24、25ページ参照)。
	セットメニュー「1A CENTER SP」が「NONE」に設定されている。	センタースピーカーモードを正しく設定してください(61、62ページ参照)。
	Hi-Fi DSP音場プログラム（1～6)を選択している(「6ch Stereo」と「Game」は除く)。	DSP処理の仕様により、入力信号のフォーマットによっては、センタースピーカーからの音声出力がない場合があります。
リアL/Rスピーカーから音声が出ない	リアL/Rスピーカーのレベルが絞られている。	リアL/Rスピーカーのレベルを調節してください(24、25ページ参照)。
	セットメニュー「1C REAR L/R SP」が「NONE」に設定されている。	リアL/Rスピーカーモードを正しく設定してください(62ページ参照)。
	音場プログラム11で、モノラルソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。
リアセンタースピーカーから音声が出ない	リアセンタースピーカーのレベルが絞られている。	リアセンタースピーカーのレベルを調節してください(24、25ページ参照)。
	セットメニュー「1C REAR L/R SP」が「NONE」に設定されている。	リアL/Rスピーカーモードが「NONE」に設定されると、自動的にリアセンタースピーカーモードも「NONE」に設定されます。リアL/Rスピーカーモードを正しく設定してください(62ページ参照)。
	セットメニュー「1D REAR CT SP」が「NONE」に設定されている。	リアセンタースピーカーモードを正しく設定してください(63ページ参照)。
	ドルビーデジタルEXデコーダーやDTS ESデコーダーがはたらいていない。	EX/ESキーを押して、「AUTO」、「Discrete 6.1」または「Matrix 6.1」を選択してください(31ページ参照)。

症状	原因	対策
スーパーウーファーから音声が出ない	セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」を「MAIN」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください（63ページ参照）。
	セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「MAIN」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください（63ページ参照）。
	再生しているソースにLFEや低音信号（90Hz以下）が含まれていない。	
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。
低音の再生不良	スーパーウーファーを使用していないのに、セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「BOTH」に設定している。	「MAIN」に設定してください（63ページ参照）。
	セットメニューの各スピーカーモードがスピーカー構成に一致していない。	各スピーカーモードを適切に設定してください（61～64ページ参照）。
ハム音が出る	ステレオピンケーブルの接続が不完全。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。
	レコードプレーヤーのアースがSIGNAL GND端子に接続されていない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください（18ページ参照）。
レコードの再生音が小さい	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください（17ページ参照）。
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のOUT（REC）端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、OUT（REC）端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。	
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタルで信号を入力してください。
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログで信号を入力してください。
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。	
スピーカーレベルなどのパラメーターを変更できない	セットメニュー「14 MEMORY GUARD」が「ON」に設定されている。	「OFF」に設定してください（71ページ参照）。
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機がスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。

■FM/AM放送の受信

症状		原因	対策
FM/AM	プリセット選曲ができない	プリセット(メモリー)が消えている。	もう一度プリセットしてください。
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	アンテナの接続を確認してください。 FM屋外アンテナを多素子のものに変えてください。
			マニュアル選局をしてください。
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。
	オート選局ができない	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	マニュアル選局をしてください。
			屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。
			マニュアル選局をしてください。
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る(特に夕方に)	本機の近くでテレビを使用している。	本機からテレビを離してください。

■リモコン

症状	原因	対策
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください(8ページ参照)。
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。
	操作する機器が選択されていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選択してください(26ページ参照)。
外部機器がリモコンで操作できない	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください(46、47ページ参照)。
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	メーカーコードで操作できない機能は、機器のリモコンから本機のリモコンにラーニング(学習)してください(47、48ページ参照)。
リモコンが新しい機能をラーニング(学習)しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください(4ページ参照)。
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5〜10cmの距離に配置してください(47ページ参照)。
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	ラーニング(学習)はできません。
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去して、メモリ容量に空きを作ってください(53、54ページ参照)。

用語解説

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のリアチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。リアチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル5.1チャンネル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャンネル(L、R、センター)と、リアのステレオ2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
リアがステレオ2チャンネルで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースにリアセンターチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています。(リアセンターチャンネルはリアLとリアRチャンネルから作られます。)ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(メインL、R、センター、2つのリアチャンネル、スーパーウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。
本機は5.1チャンネルのソースにリアセンターチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするDTS-ESデコーダーを内蔵しています。

DTS Neo:6

2チャンネル信号のソースを、リアセンターを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

LFE(ローフリケンシーエフェクト) 0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

シネマDSP
(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

サイレントシアター

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

バーチャルシネマDSP

リアスピーカーを設置していなくても、仮想的にリアスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、メインL、Rの2スピーカーシステムでバーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復号)して再生できます。

Sビデオ信号

Sビデオ信号は、通常ならステレオピンケーブルで伝送される映像信号を、専用のSビデオケーブルを使って、輝度を表すY信号と色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。

コンポーネントビデオ信号

映像信号を「輝度を表す信号:Y信号」と「色を表す信号:P_B/C_BおよびP_R/C_R信号」の3系統に分けて伝送します。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネント信号は、色信号から輝度信号を引いているので色差信号とも呼ばれます。
コンポーネント信号を出力するには、コンポーネント入出力のあるモニターと再生機器が必要です。

D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号を一本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてD1からD5に分けられ、本機はD1からD4に対応しています。(D端子を接続するケーブルには、両端がD端子のケーブルと、片方が3本のRCAピンジャックのケーブルがあります。D2からD4までの入力機器やモニターを接続する場合、両端がD端子のケーブルで接続してください。)

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDやDVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

サンプリング周波数/量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

仕様

オーディオ部

定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、0.04% THD)
- メインL/R .... 110W＋110W
- センター 110W
- リアL/R .... 110W＋110W
- リアセンター 110W

実用最大出力(EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD)
- メインL/R .... 165W＋165W
- センター 165W
- リアL/R .... 165W＋165W
- リアセンター 165W

ダンピングファクター(8Ω、20Hz～20kHz)
- メインL/R 80以上

入力感度/インピーダンス(アナログ)
- PHONO(MM) 2.5mV/47kΩ
- CD他 150mV/47kΩ
- 6CH INPUT 150mV/47kΩ

出力レベル/インピーダンス
- REC OUT 150mV/1.2kΩ
- PREOUT 1.0V/1.2kΩ
- MONO SUBWOOFER 4.0V/1.2kΩ

ヘッドホン出力/インピーダンス 150mV/100Ω

周波数特性
- CD他－メインL/R .... 10Hz～100kHz、－3.0dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)
- MAIN－SP OUT(55W/6Ω) 0.04%以下

S/N比
(IHF-Aネットワーク、入力ショート、EFFECT OFF)
- PHONO(MM)、5mV入力 86dB以上
- CD他、250mV入力 100dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
- メインL/R、SP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション
(5.1kΩターミネート、1kHz/10kHz)
- CD他 60dB以上/45dB以上

トーンコントロール(メインL/R)
- BASS .... ±10dB/50Hz
- TREBLE .... ±10dB/20kHz
- BASS EXTENSION .... ＋6dB/60Hz

A/Dコンバーター
.... 128倍オーバーサンプリングΔΣ方式24ビット

D/Aコンバーター 192kHz/24ビット対応

ビデオ部

ビデオ信号方式 .... NTSC

コンポジットビデオ信号レベル 1Vp-p/75Ω

Sビデオ信号レベル
- Y 1Vp-p/75Ω
- C 0.286Vp-p/75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
- Y 1Vp-p/75Ω
- P_B/C_B、P_R/C_R 0.7Vp-p/75Ω

S/N比 50dB以上

周波数帯域(MONITOR OUT)
- VIDEO、S VIDEO .... 5Hz～10MHz、－3dB
- COMPONENT VIDEO、D4 VIDEO .... DC～60MHz、－3dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz

実用感度(IHF) .... 1.0μV(11.2dBf)

S/N(IHF、モノ／ステレオ) 76dB/70dB

歪率(1kHz、モノ／ステレオ) 0.2%/0.3%

ステレオセパレーション(1kHz) 45dB

周波数特性 .... 20Hz～15kHz、＋0.5、－2dB

AMチューナー部

受信周波数 .... 531kHz～1611kHz

実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 .... AC100V、50/60Hz

消費電力 290W

待機時消費電力 1W以下

ACアウトレット(電源スイッチ連動、合計80W) 2

寸法(幅×高さ×奥行き) .... 435×171×434mm

質量 15kg

付属品 3ページをご覧ください

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**
◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL　(0570) 01 − 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL　(053) 460 − 3409

FAX　(053) 460 − 2777
住所　〒430-8650
静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間　10:00〜12:00，13:00〜18:00
(日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道　〒064-8543　札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台　〒984-0015　仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏　〒143-0006　東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松　〒435-0016　浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋　〒454-0058　名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪　〒565-0803　吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広　島　〒731-0113　広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四　国　〒760-0029　高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州　〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

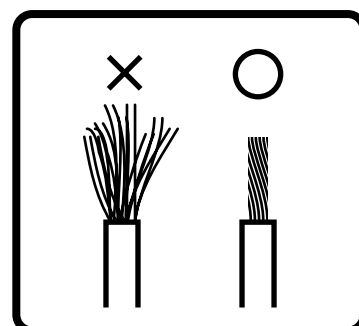
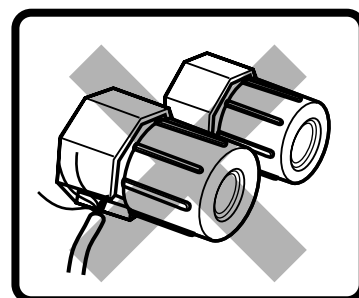
ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

YAMAHA

DSP-AX1300
DSP-AX2300
簡易接続ガイド

基本接続＋DVD プレーヤー編

DVDプレーヤーを接続して、6.1チャンネルのデジタルソースを楽しむための、基本的な接続のしかたを説明します。

接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。

芯線をしっかりとよじらないと、ショート（短絡）の原因になります。

スピーカーケーブルを接続する場合は、ショートしないように注意してください。

DVD プレーヤー

OPTICAL OUT

VIDEO OUT

メインスピーカー

右

左

VIDEO IN

テレビ

スーパーウーファー

センタースピーカー

リアセンタースピーカー

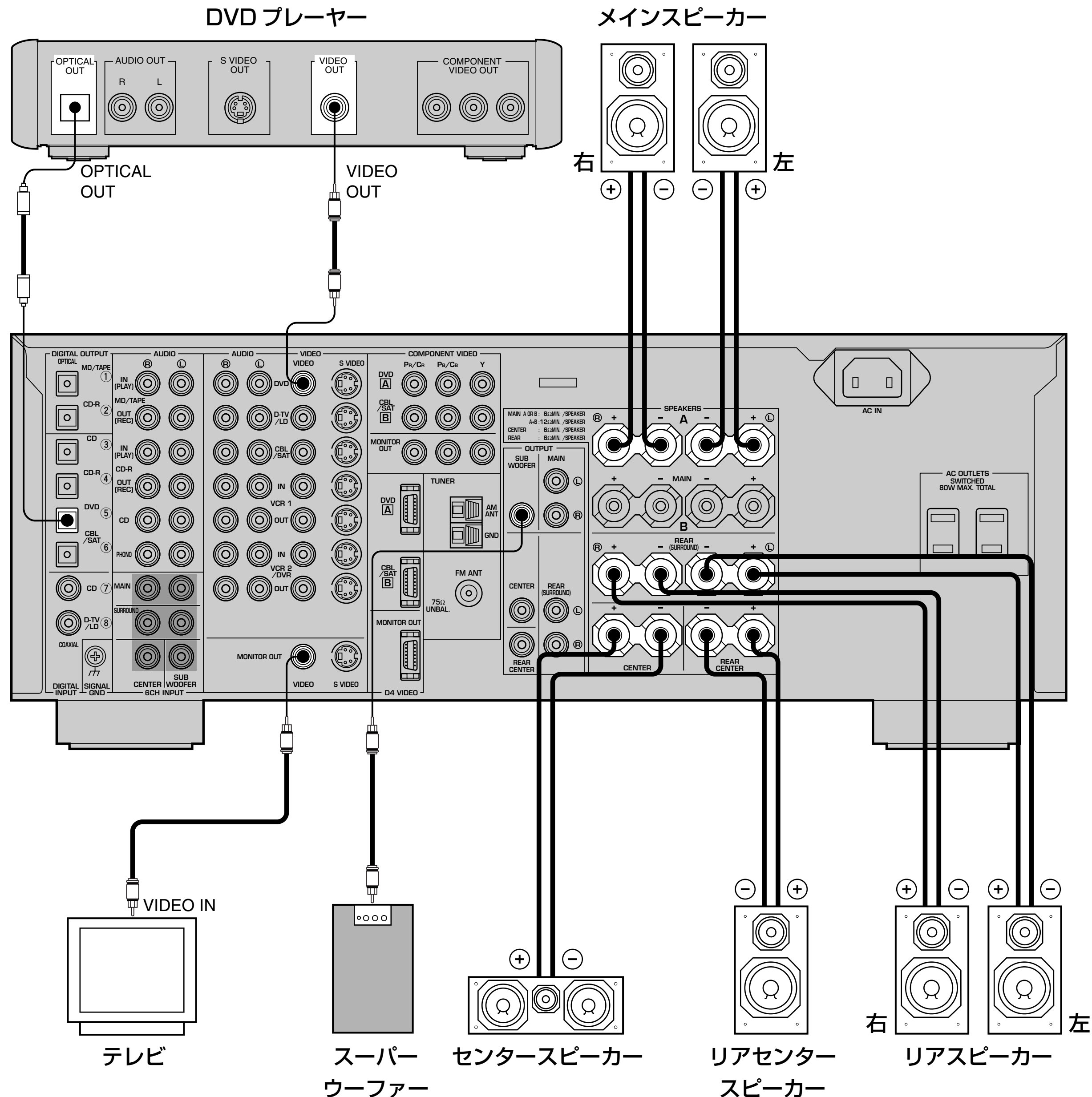
右

左

リアスピーカー

Printed in Malaysia V961900

YAMAHA

DSP-AX1300
DSP-AX2300
簡易接続ガイド

MD レコーダー編

MD レコーダーを接続して、音声を再生／録音するための、接続のしかたを説明します。
スピーカーやテレビの接続のしかたについては、裏面をご覧ください。

ご注意

- 本機はデジタル信号回路とアナログ信号回路が独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号は DIGITAL OUTPUT 端子からのみ出力されます。
- 本機の OPTICAL 端子は、EIAJ 規格に基づいて設計されています。EIAJ 規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。